

中学校道徳科における 評価の在り方に関する研究

—認め、励ます評価に生かす自己評価の分析を通して—

【研究の概要】

道徳教育の充実を目指した中学校における「特別の教科 道徳」（以下「道徳科」という。）が平成31年度から全面実施されることに伴い、道徳科における評価の重要性が示された。本研究では、認め、励ます評価に生かす自己評価の分析方法について研究し、人間としての生き方についての考えを深め、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うための中学校道徳科における評価に効果的に活用する方法を提案する。

キーワード：記述自己評価分析・一枚自己評価シート・まとめ自己評価・横断的・縦断的

平成 30 年 3 月
岩手県立総合教育センター
長期 研修 生
所属校 盛岡市立下橋中学校
軽 石 邦 子

目次

I	研究主題	1
II	主題設定の理由	1
III	研究の目的	2
IV	研究の目標	2
V	研究の見通し	2
VI	研究 構想	2
1	中学校道徳科における評価の在り方についての基本的な考え方	2
(1)	道徳教育における評価	2
(2)	道徳科における評価	2
(3)	道徳科における評価の在り方	3
(4)	道徳科の特質を踏まえた評価方法	3
2	生徒の学習活動を生かした評価	4
(1)	生徒による自己評価の活用	4
(2)	生徒による自己評価の分析の必要性	4
3	評価材料の活用の手立て	6
(1)	評価に活用する自己評価の方法・場面	6
(2)	授業中の観察を行う方法・場面	8
(3)	多様な評価方法による見取りの関連付け	8
(4)	生徒へのフィードバック	10
4	検証計画	10
5	研究構想図	11
VII	実践と結果の考察	12
1	実践日程と内容	12
(1)	実践校	12
(2)	対象学年	12
(3)	実践期間	12
(4)	実践内容	12
2	1 単位時間における評価の実践	14
(1)	授業 1 について	14
(2)	授業 2 について	20
(3)	授業 3 について	26
(4)	授業 4 について	32
3	一定期間における評価の実践	38
(1)	評価材料の関連付け	38
(2)	評価文の実際	39
4	結果の考察	40
(1)	見取りの手立ての有効性	40
(2)	見取りの関連付けの手立ての有効性	43
(3)	生徒へのフィードバックの有効性	45
VIII	研究のまとめ	48
1	全体考察	48
2	研究の成果	48
3	今後の課題	48
	<おわりに>	48
IX	引用文献, 引用 Web ページ, 参考文献, 参考 Web ページ	49

I 研究主題

中学校道徳科における評価の在り方に関する研究

－認め、励ます評価に生かす自己評価の分析を通して－

II 主題設定の理由

平成 26 年 10 月、中央教育審議会は「道徳に係る教育課程の改善等について（答申）」（2014）（以下「答申」という。）をまとめた。その中で、道徳教育の充実を図るため、「道徳の時間を『特別の教科道徳』（仮称）として位置付けること」「目標を明確で理解しやすいものに改善すること」「多様で効果的な道徳教育の指導方法へと改善すること」「一人一人のよさを伸ばし、成長を促すための評価を充実すること」等について提言している。これを受けて、平成 27 年 3 月に、中学校学習指導要領が一部改正され、「特別の教科 道徳」が位置付けられたことに伴い、中学校の道徳科における目標は「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる」と改められた。

道徳の評価については、「答申」（2014）で「十分な評価活動が行われておらず、このことが、道徳教育を軽視する一因となった」と課題が指摘され、「児童生徒一人一人のよさを伸ばし、道徳性に係る成長を促すための適切な評価を行うことが必要」と求められた。これを受けて、中学校学習指導要領において道徳科の評価は「生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすよう努める必要がある」と見直された。

そこで、道徳科の評価の具体的な在り方について、平成 28 年 7 月、道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議は、『特別の教科 道徳』の指導方法・評価等について（報告）」（2016）をまとめた。その中で、児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子をどのように見取り、記述するかについて、他の児童生徒との比較ではなく、児童生徒自身がいかにか成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価を行うことが示された。その際に、「多面的・多角的な見方へと発展させているか」「道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか」といった点を重視することも合わせて示されている。

中学生の段階は、挫折感や内面の葛藤など不安定になりながらも、人間としての生き方についての関心が高まり、自我を築いていく時期である。そのような時期の指導に携わる教師は、生徒の実態の把握に努め、教師と生徒との人格的な触れ合いによる共感的な理解を基盤とした評価を心掛ける必要がある。そのために、発言・会話の内容や話合いの様子、作文やノートなどの記述、生徒による自己評価から見取ったことを蓄積し、継続的に生徒の成長を見守り、認め、励ます評価につなげていきたい。また、生徒が行う自己評価は生徒自身が学びを振り返る学習活動ではあるが、効果的に活用することで教師の観察による見取りだけでは判別することが難しい生徒の内面的な成長を把握する手がかりになり、教師の評価活動に有効に働くと考える。

そこで本研究では、認め、励ます評価に生かす自己評価の分析方法について研究し、人間としての生き方についての考えを深め、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うための中学校道徳科における評価に効果的に活用する方法を提案していきたい。

Ⅲ 研究の目的

一人一人のよさを伸ばし、成長を促すための評価の在り方について研究することで、道徳教育の充実に資する。

Ⅳ 研究の目標

認め、励ます評価に生かす自己評価の分析方法について研究し、自己評価を道徳科の評価全般に効果的に活用する方法を明らかにした上で、中学校道徳科における評価の方法を提案する。

Ⅴ 研究の見通し

生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を評価するための方法や場面を明らかにし、生徒の活動の見取りに必要な学習シートや自己評価シートを作成し活用する。その中で、学習活動である生徒の自己評価をどのように分析すればよいか研究し、学習評価である教師の見取りと自己評価の分析結果を関連付け、生徒の成長につながるよりよい個人内評価に生かす方法を提案する。

Ⅵ 研究構想

1 中学校道徳科における評価の在り方についての基本的な考え方

(1) 道徳教育における評価

評価というものは、生徒にとっては自らの成長を実感し意欲の向上につなげていく契機となるものであり、教師にとっては目標や計画、指導改善や充実の手がかりとなるものである。道徳教育においてもこうした考え方は踏襲されるべきものであり、その評価は常に指導に生かされ、生徒の成長につながるものでなくてはならない。また、学校の教育活動全体を通して行う道徳教育における評価は、道徳性が人格の全体や生き方の全般に関わることから、教師は生徒一人一人の道徳的な成長を温かく見守り、生徒がよりよい生き方を求めていく努力を評価し、それを勇気付ける働きをもつようにすることが求められている。こうした評価をするためには、教師が生徒と信頼関係を築き、人格的な触れ合いによって共感的な理解をする必要がある。

(2) 道徳科における評価

これまでの道徳の時間における評価は、中学校学習指導要領(2008)によると「生徒の道徳性については、常にその実態を把握し、指導に生かすよう努める必要がある。ただし、道徳の時間に関して数値などによる評価は行わないものとする。」と示されてきたが、平成27年3月に中学校学習指導要領が一部改正され、道徳科における評価は、「生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすよう努める必要がある。ただし、数値などによる評価は行わないものとする。」となり、「特別の教科」としての趣旨を生かし、道徳科の評価を指導要録に記述することが示された。

道徳科において養うべき道徳性は、一人一人の人格の全体に関わるものであり、数値などによって不用意に評価すべきものではない。しかし、それぞれの時間における指導のねらいとの関わりにおいて、生徒の学習状況や道徳性に係る成長などを把握し、一人一人が授業を通じていかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます評価を記述式で行うことが求められている。そして、その評価を通して、改めて学習指導過程や指導方法について検討し、今後の教師の指導に生かすことが重要である。

(3) 道徳科における評価の在り方

ア 認め、励ます個人内評価

特別の教科として位置付けられた道徳科における評価は、観点別評価ではなく生徒がいかにか成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価を原則としている。それは、道徳科の特質を踏まえた場合、他の生徒と比較したり優劣を決めたりする評価はなじまず、また、道徳性は生徒自身が生涯にわたって育み続けていくものであるので一定の基準に到達したかどうかを評価するものではないからである。

評価に当たっては、学習活動に着目し、年間や学期といった一定の時間的なまとまりの中で、生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を把握する必要がある。こうしたことを踏まえ、特に、学習活動において、生徒が他者の考えや議論に触れ、自律的に思考する中で、一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているかということや、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかといった点を重視することが重要である。

「中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」(2017)(以下「解説」という。)で挙げられている、学習状況や道徳性に係る成長の様子を見取る視点の例を以下に示す。

【学習状況や道徳性に係る成長の様子を見取る視点】

- 一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか。
 - ・道徳的価値に関わる問題に対する判断の根拠やそれに伴う心情を様々な視点から捉え考えようとしている。
 - ・自分と違う立場や考え方、感じ方を理解しようとしている。
 - ・複数の道徳的価値の対立する場面において取り得る行動を広い視野から多面的・多角的に考えようとしている。 等
- 道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか。
 - ・読み物教材の登場人物を自分に置き換えて考え、具体的にイメージして理解しようとしている。
 - ・現在の自分自身を振り返り、自らの行動や考えを見直している。
 - ・道徳的な問題に対して自己の取り得る行動を他者と議論する中で、道徳的価値の理解を更に深めている。
 - ・道徳的価値を実現することの難しさを自分のこととして捉え、考えようとしている。 等

イ 大きくくりなまとまりを踏まえた評価

道徳の授業を通して、ねらいに基づく適正な評価を行うとともに、多様な評価方法を活用して評価材料を蓄積し大きくくりなまとまりを踏まえた評価を行っていくことを教師は求められている。

大きくくりなまとまりには、時間的な面と内容的な面を考える必要がある。どの学級にも、積極的に発言をする生徒もいれば、発言が少なくてもじっくり考えて文章に書くことで自信をもって発言できる生徒もいる。このような様々な特徴をもった生徒一人一人の学びへの姿勢や成長の様子を、複数時間ごとや月ごと、学期ごと、年間を通して、時間をかけて丁寧に見取っていくことが重要である。

また、個々の内容項目ごとの見取りに固執せず、内容項目を括る4つの視点というまとまりや内容相互の関連性や発展性などにも考慮しながら、生徒の学びがより多面的・多角的な見方へと発展しているか、道徳的諸価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかといった点に注目していくことも重要である。

(4) 道徳科の特質を踏まえた評価方法

評価を行う際、授業中の学習の取り組みの様子を中心に見取ることになるが、適切に評価を行う

ためには生徒が本来の自分を出せるよう、学級の中で安心して発言や活動をすることができる、教師と生徒、生徒と生徒の人格的な触れ合いに基づいた温かな人間関係や雰囲気作り、学習指導過程の工夫を心掛ける必要があり、それを構築していくことでより信頼度を増し、よりの確な評価となると思われる。

また、豊かな感性をもちながらも、発言が多くない、記述が苦手である等、表出する言葉のみから見取ることが難しい生徒に対応することも大切である。発言や記述にのみ頼るのではなく、それ以外の形で表出される姿にも着目したい。

以上のことから、道徳科の授業においては、以下に示すような多様な評価方法から生徒を見取り、それらを組み合わせることで、生徒が次の学びにつながっていくような前向きな評価を行うことが大切であると思われる。

【多様な評価方法の例】

- 学習活動の様子（発言、話し合い、傾聴態度、批判的精神、表情 等）の観察
- 記述による記録物（ワークシート、作文、感想文 等）からの見取り
- 生徒による1単位時間における自己評価の活用
- 生徒による一定期間における自己評価の活用
- 他の教師による評価の活用 ○ 生徒アンケートの活用

2 生徒の学習活動を生かした評価

(1) 生徒による自己評価の活用

生徒による自己評価は学習活動であり、「解説」においても「児童生徒が自身のよい点や可能性について気付くことを通じ、主体的に学ぶ意欲を高めることなど、学習の在り方を改善していくことに役立つものであり、これらを効果的に活用し学習活動を深めていくことも重要である」と示されている。授業の導入段階で、生徒自身が学習のねらいに対して「自分はこの授業を通して何を学び、どのような考えについて深めるのか」と明確に自覚することは、学習への意欲と効果を高めると考えられる。そして、終末段階で、授業における学習の姿や内面の変容、学んで得た価値などについて振り返る活動を行うことによって、自分のよさに気づき、道徳的実践意欲につながっていくと思われる。

また、道徳科における評価の意義、「生徒のよさを引き出し、評価する」ことに対しても、生徒による自己評価を評価の手掛かりの一つにすることは有効であると思われる。生徒の受け止めや思いを生かして教師が温かく共感的な姿勢をもって評価するとともに、常に生徒の学びを意識した指導を重ね、生徒の豊かな人間性育成の第一歩につなげていきたい。

(2) 生徒による自己評価の分析の必要性

自己評価から見える生徒の姿には個人差がある。評価規準の捉え方や道徳性の基盤はそれぞれであるし、また、文章表現が苦手な生徒もいる。そのため、教師と生徒の温かな人格的な触れ合いに基づいて、生徒による自己評価の背景にあるものとともに読み取っていきたい。また、たとえ生徒の自己評価が消極的で否定的な記述であっても、それを受け止めて励ましながら次の学びにつながるような分析を行う必要がある。

これまで述べてきた道徳科の特質と評価の在り方を踏まえ、生徒による自己評価は【表1】①～⑦の視点で分析することとした。【表1】における「参考」は、生徒による選択式自己評価の観点を基準にしたもので、本時のねらいにどこまで迫ることができたのか段階を追って整理した。

【表1】記述自己評価分析表

	参考1	参考2	参考3
一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展している	① 道徳的価値に関わる問題に対する判断の根拠や心情を様々な視点から捉え考えようとしている		
	道徳的価値に関わる問題について、登場人物の心や状況を多様な角度から捉え、価値の大切さを感じている	道徳的価値に関わる問題について、登場人物の心や状況を多様な角度から捉え考えられている	(教材を通して)新しい発見を得たと感じている
	② 自分と違う立場や考え方、感じ方を理解しようとしている		
	道徳的価値(の実現)には、多様な考え方・感じ方があることを理解し、自分の考えを更に広げている	道徳的価値(の実現)には、多様な考え方・感じ方があることを理解している	(教材を通して)多様な考え方があることに気付いている
	③ 複数の道徳的価値の対立する場面において取り得る行動を広い視野から多面的・多角的に考えようとしている		
	複数の道徳的価値が対立した場合の判断や行動を様々な視点で捉え、根拠を明確にして現実と結びつけて考えている	複数の道徳的価値が対立した場合の判断や行動を様々な視点で捉え、根拠を明確にして考えている	複数の道徳的価値が対立した場合の判断や行動について考えている
道徳的価値を自分自身との関わりで深めている	④ 登場人物を自分に置き換えて考え、具体的にイメージして理解しようとしている		
	登場人物を自分に重ね、人物に寄り添いながら道徳的価値についての理解を深めている	登場人物を自分に重ね、道徳的価値について考えている	登場人物を自分に重ね、(教材について)考えようとしている
	⑤ 現在の自分自身を振り返り、自らの行動や考えを見直している		
	道徳的価値に関し、これまでの自分を見直し、これからの生活や生き方の目標や課題を考えている	道徳的価値に関し、これまでの自分はどうか見直している	(教材を通して)これからの自分の生活や生き方への目標や課題について考えている
	⑥ 道徳的な問題に対して自己の取り得る行動を他者と議論する中で、道徳的価値の理解を更に深めている		
	道徳的な問題に対しての自分の行動を予想し、仲間との議論で価値の理解を深め、大切さを感じている	道徳的な問題に対しての自分の行動を予想し、仲間との議論で価値の理解を更に深めている	仲間との議論を通して、自分の考えを深めることができたと感じている
	⑦ 道徳的価値を実現することの難しさを自分のこととして捉え考えようとしている		
実現が難しい道徳的価値でも、必要なことと感じ、どういう自分でありたいか考えている	自分や日常生活と重ね、実現が難しい道徳的価値だが大切であると考えている	自分や日常生活と重ね、(教材中の)課題の実現の難しさを感じている	

3 評価材料の活用の手立て

(1) 評価に活用する自己評価の方法・場面

ア 1 単位時間の自己評価

1 単位時間における自己評価として、主に、ねらいに対する「記述自己評価」と、学習活動に対する「選択式自己評価」の二つの方法を中心に行う。

ねらいに対する記述による自己評価は、生徒自身が「なぜそう考えたのか」という思考を深めるとともに、「生徒が本時のねらいにどこまで迫ることができたのか」という教師自身の授業に対する評価とその指導改善につなげることができる。また、授業における教師の観察だけでは把握が難しい生徒の内面の変容が表出されていることがあり、教師の評価活動に有効に働くと考えられる。

学習活動に対する振り返りを選択式で行うねらいは、次の三つである。①学級全体の様子や傾向の把握、②記述や文章力による評価の差異の解消、③記述で表しにくい深化の表出である。

学習活動中に生徒が書く活動は、「学習シート」に発問に対して自分が考えたことを書く欄とメモ欄を設定し、メモ欄には仲間の考えや、自分との考えと比べてさらに考えたこと、心に残ったフレーズなどを記入させ、判断の理由や考えの変化を見取る材料の一つとする。

【1 単位時間の自己評価】

／	1 テーマ : ○○○○
<p><前> 『(テーマ)』 についてのあなたの考え、思い、イメージを書きましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; background-color: #ffffcc; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%; text-align: center;">生徒は学習前に書く</div> <p><後> 今日の学習で感じたこと、考えたことを書きましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; background-color: #ffffcc; padding: 10px; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p>「深まりある振り返り」を目指して、次の①や②を入れて書かせる</p> <p>①自分の生活・生き方と照らし合わせてみる</p> <p>②考えが変わった、深まったのはどんなことか</p> <p style="padding-left: 40px;">それはどんなことをきっかけに変わったか、深まったか</p> <p style="padding-left: 40px;">それはどのように変わったか、深まったか</p> </div> <p>心に残ったフレーズ</p> <div style="border: 1px solid black; background-color: #ffffcc; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%; text-align: center;">テキスト内の文、友だちの発言、先生の言葉 等</div>	
◆学習を振り返って今の自分にあてはまるものに○をつけてください。	
1	今日の授業で新しい発見があった
2	仲間の考えが自分の考えを深めることになった
3	授業を通していろいろな考え方があることに気づいた
4	自分のこととして考える場面があった
5	これからの自分の生活や生き方への目標や課題に気づいた
先生から :	

【学習シート】

〇〇〇〇（テーマ）	「〇〇〇〇（資料名）」
1 （発問）	<メモ欄> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #ffffcc;"> ＊メモには、仲間の考え、考えを比べてさらに考えたこと等を記入する </div>
2 （発問）	
3 （発問）	

イ 一定期間のまとめ自己評価

道徳科の授業における振り返りの場面は、学習直後で気持ちが高まって前向きになる傾向があるが、その思いが消えずに持続してこそ、その生徒に道徳的諸価値が定着するものと思われる。逆に、その授業の中では消極的・否定的であった考えが、日常生活を経ることで生徒の中に変化が生まれてくる場合もある。また、生徒の発達段階に応じて、人が生きる上で大事ではあるがその実現が難しい課題を取り扱い、授業後も考え続ける学びも多くなってくる。そのような中・長期的な定着や成長の見取りの手立てとして、一定期間後に「まとめ自己評価」を実践していきたい。

また、生徒による1単位時間の自己評価の記録については複数時間分を【図1】のように一枚のシートにまとめる。この「一枚自己評価シート」を使用することによって、生徒にとっては、学習を通して継続的に学びを深めたことが心の成長の記録として保管でき、教師にとっては、より生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を、継続的に把握しやすくなると考えた。また、「まとめ自己評価」は一枚自己評価シートの裏面に印刷し、生徒はこれまでの学習シートや一枚自己評価シートを見直しながら取り組むこととする。



【図1】一枚自己評価シート

【一定期間のまとめ自己評価シート】

<p>1 もっとも自分の考え方・判断に影響があったと思った授業・・・ ＊なぜそう思ったのか理由も書いてください。</p> <p>2 もっとも自分の考えが広がったと思った授業・・・ ＊なぜそう思ったのか理由も書いてください。</p> <p>3 もっとも自分のこれからは生かしていこうと思った授業・・・ ＊なぜそう思ったのか理由も書いてください。</p> <p>4 この期間を通して、あなたは道徳の授業をどう感じましたか。</p>

(2) 授業中の観察を行う方法・場面

道徳科における評価は、学習の到達度や目標の達成状況を把握するものではなく、学習状況を記録するとされている。つまり、学習の成果物のみをもとに評価するのではなく、学習活動の様子を評価するということである。そのため、教師は授業中の生徒の学習の様子を観察、把握し、適切に評価を行いたい。

学習活動の様子について、授業メモなどに書き込んでおきたい学習活動観察例を以下に示す。

【学習活動観察例】

- 仲間の意見に真剣に耳を傾けている
 - ・話し手に体や顔を向けて聞いている
- 仲間の考えを引き出している
 - ・グループ内の話合いで口火を切っている
 - ・問いかけをするなど交流の中心になっている
- 自分の考えを伝えようとしている
 - ・挙手している
 - ・グループ内でよく語っている
- 慎重に考えを整理している
 - ・教材を何度も読み返している
 - ・何度も消して書き直すなど書くのに時間がかかっている
- 態度や表情で意思を示している
 - ・他者の発言に表情や態度で反応している

(3) 多様な評価方法による見取りの関連付け

ア 横断的な評価

一枚自己評価シートの生徒による記述自己評価を中心に、複数の授業を横に並べ、その中で特によかった学びを取り上げて評価を行う。その際、答えが一つではない道徳的な課題について、生徒が自分自身の課題と捉え、他者の考えや議論に触れて、自律的に思考する中で、一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているかということや、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかといった点を重視し、よさを認め、励ますよう記述していくことが大切である。

イ 縦断的な評価

継続的な教師の観察から見取ったことを中心に、複数の授業を縦に並べ、授業を重ねるごとに成長している点について評価を行う。その際、登場人物に共感したり、自分なりに考えを深めた内容を書くように変化が見られたり、既習の内容と関連付けて考えている場面に着目するなど、1単位時間の授業だけでなく、生徒が長い期間を経て、多面的・多角的な見方へと発展していたり、これからの自分の在り方を考えるようになったりしたことを認め、励ますよう記述することも大切である。

また、学習活動の観察の際には、発言が多くない生徒や記述が苦手な生徒が、教師の話や他の生徒の話に聞き入り考えを深めようとしている姿等にも着目するということが重要である。そのような学びの姿も、生徒の内面の成長との関わりで記述していきたい。

【表2】見取りの関連付けの例

<p>ア 横断的な評価</p> <p>○ <input type="text" value="a"/> では、<input type="text" value="c"/> を <input type="text" value="b"/> することが<u>できました</u>。 <small>(補助資料p. 15 生徒D 評価文)</small></p> <p>○ <input type="text" value="a"/> では、<input type="text" value="b"/> から、<input type="text" value="c"/> することが<u>できた</u>ことがうかがえました。 <small>(補助資料p. 15 生徒F 評価文)</small></p> <p>○ <input type="text" value="a"/> では、<input type="text" value="d"/> していました。そして、<input type="text" value="c"/> を <input type="text" value="b"/> することが<u>できました</u>。 <small>(補助資料p. 15 生徒A 評価文)</small></p> <p>○ <input type="text" value="a"/> では、<input type="text" value="c"/> から、授業後からさらに考えを深め、<input type="text" value="c2"/> を <input type="text" value="b"/> することが<u>できました</u>。 <small>(補助資料 p. 15 生徒C 評価文)</small></p> <p>○ <input type="text" value="a"/> では、<input type="text" value="c"/> し、さらに<input type="text" value="c2"/> を <input type="text" value="b"/> することが<u>できました</u>。 <small>(補助資料p. 16 生徒J 評価文)</small></p>	
<p>イ 縦断的な評価</p> <p>○道徳の授業を重ねるごとに、<input type="text" value="d"/> してきて、<input type="text" value="b"/> を通して<input type="text" value="e"/> 姿勢が高まっ<u>てきました</u>。 <small>(補助資料p. 15 生徒E 評価文)</small></p> <p>○道徳の授業では、<input type="text" value="d"/> していました。また、<input type="text" value="e"/> 様子が<input type="text" value="b"/> に表れ<u>てきました</u>。 <small>(補助資料p. 16 生徒I 評価文)</small></p> <p>○毎時間の道徳では、<input type="text" value="d"/> を<input type="text" value="b"/> し、<input type="text" value="e"/> することが<u>できました</u>。学習後は<input type="text" value="e2"/> に <u>なりました</u>。 <small>(補助資料 p. 16 生徒H 評価文)</small></p>	
<p>a 教材名もしくは内容項目</p> <p>b 学習活動の例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループの話し合い ・全体交流 ・ペアワーク ・役割演技 ・動作化 ・振り返りの記述, 記入 ・学習シートの記述, 記入 ・発言 ・発表 ・挙手 <p>c 自己評価分析 p. 5 参照</p> <p>d 学習活動分析の例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し手に注目し, 仲間の意見に真剣に耳を傾けている ・話合いのつなぎ役を行い, 仲間の考えを引き出している ・積極的に発言し, 自分の考えを全体に伝えようとしている ・メモをとり, 多様な考えを受け止めようとしている ・じっくりと言葉を選びながら慎重に考えを整理している ・頭を抱えて考え込んでいる ・仲間の発言に何度も頷いている ・記述の分量が増えてきている <p>e 見取る視点の例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な考えを認める ・多様な視点で考える ・様々な立場で考える ・自分の考えを広げる ・新しいものの見方・考え方を発見する ・登場人物を自分に重ねて捉える ・身近な生活に引き寄せて考える ・自分自身を見つめ直す ・自分自身と関わらせて深める ・自分の生き方を見つめる 	

注 よさについては「～できました」(主に横断的評価), 成長については「～なりました, ～きました」(主に縦断的評価)で示す。

(4) 生徒へのフィードバック

生徒による自己評価は、まずは教師自身の指導の改善に役立てていきたい。そうすることにより、よりよい道徳科の授業につなげることができる。

また、生徒にフィードバックする方法について、授業中や日常での声かけ、生徒による自己評価シートに対するコメント、学級通信や道徳通信への掲載等がある。

声かけは、主に授業中の声かけが中心になり、学習シートや自己評価への記述によるコメントは、自己評価に生徒が書いていることに対するコメントが中心となる。その際、「認め、励ます」声かけやコメントとなるよう留意したい。このような教師の言葉は、「共感的に受け止められている」と生徒が実感することにつながる。そして、学級通信や道徳通信は、生徒全体に向けたものと同時に、保護者に向けて出されるという趣旨を踏まえ、学習内容や自己評価シートに記述した振り返りの紹介、教師の1単位時間の生徒の学びに対する感想を盛り込んでいきたい。

大きくくりなまとまりを踏まえた評価のフィードバックは、通知表等に記述で行う。中・長期間の道徳の授業で、生徒たちはさまざまなことを感じ、成長しているので、教師はそのことを正確に記録し具体的に伝えていく必要があると思われる。生徒の心の成長を保護者と共に喜び、さらなる成長を応援していきたい。

このようなフィードバックは、生徒にとって自己の道徳性や学習状況について考えることができ、この繰り返しによって、生徒の道徳科の授業への主体的な姿勢を生み、道徳性に係る成長につながると考える。

4 検証計画

道徳教育の充実に資するために、自己評価を道徳科の評価全般に効果的に活用することができたかについて、【表3】の方法で検証する。

【表3】検証計画

検証項目	検証内容	検証方法
自己評価を道徳科の評価全般に効果的に活用する	<ul style="list-style-type: none">・ 実践開始前の生徒の状況について・ 1単位時間における生徒の学習状況と道徳性に係る成長について・ 一定期間における生徒の学習状況と道徳性に係る成長について・ 認め、励ます個人内評価について・ 実施後の生徒の状況について	<ul style="list-style-type: none">・ 既習の道徳学習シートの分析考察・ 授業記録の分析・考察・ 記述物の分析・考察・ 1単位自己評価の分析方法の考察・ まとめ自己評価の分析方法の考察・ 教師の見取りと自己評価の分析との関連付けの考察・ 実践後のアンケートの分析考察

人間としての生き方についての考えを深め、よりよく生きる生徒

認め、励ます個人内評価

見取りの関連付け

横断的な評価

縦断的な評価

複数の授業の中から、
特によかった学びを評価する

授業の回数を重ねるごとに
成長している点を評価する

一枚自己評価シート

生徒へのフィードバック(授業改善・通信・コメント 等)

生徒のまとめ自己評価

分析

生徒の
自己評価

授業

教師の
授業メモ

分析

生徒の
自己評価

授業

教師の
授業メモ

分析

生徒の
自己評価

授業

教師の
授業メモ

分析

生徒の
自己評価

授業

教師の
授業メモ

学習活動の教師の見取りまとめ

学習状況や道徳性に係る成長の様子を見取る視点

- ・ 一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか
- ・ 道徳的価値を自分自身との関わりで深めているか

教師と生徒との人格的な触れ合いによる共感的な理解

VII 実践と結果の考察

1 実践日程と内容

- (1) 実践校 盛岡市立下橋中学校
- (2) 対象学年 第2学年1組(35名)
- (3) 実践期間 平成29年9月14日(木)～平成29年11月14日(火)
- (4) 実践内容

実践内容は、一覧として【表4】に示したとおりである。

【表4】実践内容の一覧

授業 1	平成29年9月14日(木) 主題名 人々のために [C 勤労]
	教材名 われ、ここに生きる(出典 東京書籍「明日をひらく 2年」)
	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 22%; padding: 5px;">1年の任期で札幌からへき地の霧多布に派遣され、不便な生活の中、誠実に仕事を行う道下医師。</div> <div style="width: 22%; padding: 5px;">任期が終了し札幌に戻ろうとするが、人々に引き止められ、あと1年残る決意をする道下医師。</div> <div style="width: 22%; padding: 5px;">引き止められ続け結局7年も霧多布にいたが、地震の影響で札幌に戻れることになった道下医師。</div> <div style="width: 22%; padding: 5px;">「自分を頼りにしている人々を捨てて戻れない」と霧多布で医師を続ける決意をした道下医師。</div> </div>
	自己評価活動
評価	1単位時間における自己評価の分析、学習活動の見取り整理
フィードバック	自己評価へのコメント記入、道徳通信発行
授業 2	平成29年9月20日(水) 主題名 正義を考える [C 公正、公平、社会正義]
	教材名 わたしのせいじゃない(出典 日本文教出版「あすを生きる 2年」)
	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 22%; padding: 5px;">一人で泣いている子どもがいる。</div> <div style="width: 22%; padding: 5px;">なぜ泣いているかを問われ、14人の子供たちはそろって「わたしのせいじゃない」と言う。</div> <div style="width: 22%; padding: 5px;">わたしのせいじゃない？</div> <div style="width: 22%; padding: 5px;">資料写真5枚 ・原爆 ・難民の子供も ・先進国のゴミ捨て場 等</div> </div>
	自己評価活動
評価	1単位時間における自己評価の分析、学習活動の見取り整理
フィードバック	自己評価へのコメント記入、道徳通信発行
授業 3	平成29年9月27日(水) 主題名 [A 希望と勇気、克己と強い意志]
	教材名 まほうのスケート靴(出典 NHK for school「ココロ部！」)
	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 22%; padding: 5px;">オリンピック代表か引退かという大事な試合を迎えるスピードスケート選手のコジマ君。</div> <div style="width: 22%; padding: 5px;">ライバルたちがジェットウイナーを履き自分の記録に迫ってきていることを知るコジマ君。</div> <div style="width: 22%; padding: 5px;">スポンサーのココロスポーツの契約もあるが、ジェットウイナーを履きたいコジマ君。</div> <div style="width: 22%; padding: 5px;">ココロスポーツの社長やスタッフが訪れ、会社を挙げて自分を応援していることを知るコジマ君。</div> </div>
	自己評価活動
評価	1単位時間における自己評価の分析、学習活動の見取り整理
フィードバック	自己評価へのコメント記入、道徳通信発行

	平成 29 年 10 月 5 日(木) 主題名 深い思いやり [B 思いやり, 感謝]
	教材名 最後の年越しそば(出典 廣済堂あかつき「中学生の道徳 2」)
授業 4	<p>末期のガンで 余命2か月と 宣告され、正 月を家で家族 と過ごすこと を願う父。</p> <p>最後の正月に あろうし、に 最後で悟る正 月、にやると なると楽しい と思う娘。</p> <p>退院の大晦日、 帰宅を拒否し、 入院している お年寄りに年 越しそばを振 舞う父。</p> <p>楽しそうにそ ばを食べる父 やお年寄り、 涙を流してそ ばを食べてる 娘。</p>
	自己評価活動
評価	1 単位時間における自己評価の分析, 学習活動の見取り整理
フィードバック	自己評価へのコメント記入, 道徳通信発行
授業 5	平成 29 年 10 月 11 日(水) 一定期間におけるまとめ自己評価活動
評価	一枚自己評価シートの整理, 学習活動の見取りまとめ, まとめ自己評価の分析, 評価材料の関連付け
フィードバック	まとめ自己評価へのコメント記入, 道徳通信発行
フィード バック	平成 29 年 11 月 14 日(火) 評価文の配付

2 1 単位時間における評価の実践

(1) 授業1について

ア 本時の構想

道徳科学習指導案

1 主題名 働くこととは [C-13 勤労]

教材名 われ、ここに生きる (出典 東京書籍 「明日をひらく 2年」)

2 ねらい へき地医療に長年従事する道下医師の姿や葛藤を通して、働くことの意義を自覚し、進んで世のため人のために尽くし、社会に貢献しようとする心情を育てる。

3 主題設定の理由

(1) 価値について

小学校高学年の内容項目[社会参画、公共の精神 勤労]では、「働くことや社会に奉仕することの充実感を味わうとともに、その意義を理解し、公共のために役立つことをすること」を目標としている。中学校では、[勤労]について「勤労の尊さや意義を理解し、将来の生き方について考えを深め、勤労を通じて社会に貢献すること」とある。小学校における指導内容を更に発展させ、中学校では、勤労の尊さを重んじる生き方を基に、社会における自らの役割や将来の生き方等についてしっかりと考えさせることが大切である。

本授業では、働くことは自らの目的を実現するという面もあるが、それによって社会とつながり、社会に貢献するという面があることを理解させたい。また、そのことが自分の幸福を追求することもでき、社会に貢献する充実感を生きがいとして味わうことができることに気付かせたい。

(2) 生徒について

日常の学校生活においては、係活動など役割がはっきりしている仕事については一生懸命働くことができているが、中には「自分がやっておもしろいから」、「仕方がない」という意識で取り組んでいる生徒も少なくない。また、本学年の生徒は、岩手県中学校文化連盟の事務局校として、11月に岩手県総合文化祭において県内の中学生や来賓をもてなす大会運営の仕事を行うことが控えている。そこで、このような時期に、本学習を通し、特別な職業人だけが社会貢献を行っているわけではなく、働くことは何らかの形で社会生活の発展・向上につながっているという勤労の意味を理解させることは意義深いと考える。

(3) 教材について

本教材は、東京書籍「明日をひらく 2年」に収録されている読み物教材である。

研修医として北大病院で働いていた道下医師は、へき地である霧多布へ1年の任期で突然派遣される。医学博士になって札幌に戻って開業したいという夢を秘めながらも、霧多布の人々に懇願され任期が徐々に伸びていく。そして、地域の人々との関わりの中で、自分を本当に必要としてくれる霧多布に残ることを決意する。自分の夢の実現や家族の思いと霧多布の人々のためという社会への奉仕との葛藤が描かれた内容である。

(4) 指導にあたって

生徒の実態と教材の特質から、道徳的価値について、人間としてよりよく生きる上で大切なものは何かを考える授業とし、学習テーマを「働くこととは」と設定する。教材を通して、仕事の本質的な意味や、人生における仕事の役割について捉えさせたい。そこで、本教材を通して、道下医師が霧多布に残ることを決意した理由について考えさせ、さらに、生徒が現在関わっている仕事への向き合い方を見つめることで、世の中の人々や社会に貢献しようとする心情を育てたい。

4 研究との関わり

(1) 生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を見取る方法・場面

ア 主に多面的・多角的な見方への発展を促す方法・場面

展開4(1)において、自分の夢や家族よりも社会に貢献することを優先した道下医師の心情や行動の理由を捉えさせるために、より多くの考えを交流する場を設定する。展開5(2)の教師の説話において、医師という職業だけではなくどんな仕事も人々の生活や社会に貢献していることに気付かせるために、プロ野球選手の話を取り上げる。

イ 主に自分自身との関わりでの価値の深まりを促す方法・場面

展開4(2)では、社会貢献の受け手の気持ちを具体的に表現させることで、受け手の感謝と共に貢献する喜びや充実感を実感させたい。展開5(1)では、自分が関わっていることも何かの役に立つことだということを実感させるために、日常生活から社会貢献の意味を考えさせる。

(2) 本時における記述自己評価分析表

	参考1	参考2	参考3
多面的・多角的な見方への発展	③ 複数の道徳的価値の対立する場面において取り得る行動を広い視野から多面的・多角的に考えようとしている 【展開4(1) p.16】		
	勤労における自己実現と社会貢献が対立した場合の判断や行動を様々な視点で捉え、根拠を明確にして自分の仕事と結びつけて考えている	勤労における自己実現と社会貢献が対立した場合の判断や行動を様々な視点で捉え、根拠を明確にして考えている	勤労における自己実現と社会貢献が対立した場合の判断や行動について考えている
	① 道徳的価値に関わる問題に対する判断の根拠や心情を様々な視点で捉え考えようとしている 【展開5(2) p.17】		
	働く意義について、様々な仕事に携わる人の状況を捉え、勤労における社会貢献の大切さを感じている	働く意義について、様々な仕事に携わる人の状況を捉え、考えている	教材を通して、新しい発見を得たと感じている
自分自身との関わり	④ 登場人物を自分に置き換えて考え、具体的にイメージして理解しようとしている 【展開4(2) p.17】		
	登場人物を自分に重ね、人々のために働くことを通しての喜びを捉えながら、働くことについての理解を深めている	登場人物を自分に重ね、働くことの意義について考えている	登場人物を自分に重ね、心情を考えようとしている
	⑤ 現在の自分自身を振り返り、自らの行動や考えを見直している 【展開5(1) p.17】		
	勤労に関し、これまでの自分を見直し、これからの生活や生き方の目標や課題を考えている	勤労に関し、これまでの自分の仕事への関わり方はどうだったのか見直している	教材を通して、これからの自分の生活や生き方への目標について考えている

5 本時の展開

	学習活動と主な発問	予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入	<p>1 本時に関わる問題意識をもつ。</p> <p>(1) 「働くこと」について自分の考えを書こう。</p> <p>2 本時の学習の方向性を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 学習テーマ 「働くこと」とは </div>		<p>*教材の内容に興味や関心をもたせる。</p> <p>*中学生も係仕事やボランティアなど「働いて」いるので自分のこととして考えるよう事前に指示する。</p>
展開	<p>3 教材の前半を読み、登場人物の気持ちを考える。</p> <p>(1) 道下医師は霧多布で診療を続けながらどんなことを考えていたのか。</p> <p><気持ちを考える></p> <p>(2) なぜ霧多布の人々は道下医師を引き止めるのか。</p> <p>4 教材の後半を読み、主人公の気持ちについて考える。</p> <p>(1) なぜ道下医師は霧多布にとどまって診療を続けようと決心したのか。</p> <p><気持ちを考える></p> <p><考えをもとに話し合う></p> <p>(2) 「心をこめて診察」している道下医師に、あなたが霧多布の患者ならどんな声をかけてあげたいか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・人々を助けたい ・博士号を取りたい ・家族にすまない ・伝染病問題を改善させた ・親身になってくれる ・一生懸命頑張ってくれる ・人々に懇願されたから ・医師としての責任、使命 ・人々とのつながり、愛着 ・自分に恥じない生き方をしたい 	<p>*「自己実現」「社会貢献」の言葉を説明する。</p> <p>*道下医師の存在は霧多布の人々にとって大きなものであることを捉えさせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><多面的・多角的な見方への発展の見取り></p> <p>③複数の道徳的価値の対立する場面において取り得る行動を広い視野から多面的・多角的に考えようとしている</p> <p>夢や家族より地域のためを第一に考えるようになった変化を捉えるために、議論の場を設定する</p> </div> <p><自分自身との関わりでの価値の深まりの見取り></p>

	<p>5 道徳的価値について、さらに考えを深める。</p> <p>(1) あなたが現在行っている仕事やボランティアにはどんな社会貢献の意味があるだろうか。</p> <p><仕事や意味を考える></p> <p>(2) 教師の説話を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・中津川的美しさを守る (ボランティア) ・大会で勝つようにチームをまとめる (部長) ・みんなが時間を意識して行動できるようにする (生活係) 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>④登場人物を自分に置き換えて考え具体的にイメージして理解しようとしている</p> <p>社会貢献が受け手との心のつながりになっていることを実感するために具体的な言葉で思いを表現するよう指示する</p> </div> <p><自分自身との関わりでの価値の深まりの見取り></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>⑤現在の自分自身を振り返り、自らの行動や考えを見直している</p> <p>社会貢献について具体的に考えるよう自分の日常生活を見つめさせる</p> </div> <p>*東日本大震災後の楽天イーグルスの選手たちが、野球を続けるべきか悩んだが、東北を元気にするため、ファンのために続けたことを話す。</p> <p><多面的・多角的な見方への発展の見取り></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>①価値に関わる問題に対する判断の根拠や心情を様々な視点で捉え考えようとしている</p> <p>どんな仕事も社会に貢献していることに気付くことで働く意義についての考えを深められるよう他の例を提示する</p> </div>
<p>終末</p>	<p>6 本時の自己を振り返る。</p> <p>(1) 自己評価シートに今日の振り返りを書いてください。</p>		

イ 本時の評価

(ア) 自己評価

分析にあたってはp.15の「本時における記述自己評価分析表」の項目を中心に、p.5の【表1】記述自己評価分析表を基にして、生徒の記述等から分析する。

① 記述自己評価の分析

授業1における、記述自己評価の分析内容（まとめ自己評価前）を【表5】に示す。

【表5】授業1における記述自己評価の分析内容

	生徒による記述自己評価	分析内容
多面的・多角的な見方への発展	働くということは、「自分が生きていくため」というイメージがありましたが、学習を通して、「 <u>誰かのために</u> 」という働く意義がわかり、自分が（今） <u>やっている仕事にもっと誇りをもちたい</u> と思いました。	①(参考1) 働く意義について新しい発見を得て、さらにこれまでの自分の仕事への関わり方を見直している
	働くことについて <u>他の人の考えを聞いて、自分とは違う部分から読み取って感じていた</u> と思ったので、他の部分からも分かるところがたくさんあるということがわかりました。 <u>物事を一点から見るだけでなく、大きく見ていきたい</u> と思いました。	②(参考2) 働く意義について、多様な考え方・感じ方があることを理解している
	「働くこと」について学んで、 <u>たくさんの考え方がある</u> ということがわかった。	②(参考3) 働く意義について、多様な考え方があることに気づいている
自分自身との関わり	<u>道下医師の生き方と自分の生活を照らし合わせてみて</u> 、やはり、人のために働くという社会貢献は素晴らしいと思った。この社会貢献は、私たちが普段やっている清掃や、委員会活動、ボランティアはとても自分たちやいろいろな人たちの役に立っていると知った。	④(参考1) 道下医師を自分に重ね、人々のために働くことを通しての喜びを捉えながら、働くことについての理解を深めている
	係活動などを「 <u>やらなきゃいけないから</u> 」と考えて行うことがありましたが、この学習で <u>自分の意志や目的をもって活動したい</u> と思いました。	⑤(参考1) 勤労に関して、これまでの自分を見直し、これからの生活や生き方の目標を考えている
	今日、私は、「1」の考え方で、 <u>自分と違う考えがあったので、考えを深める</u> ことができました。働くことが、職業だけを指しているのではないことがわかったので、 <u>今の自分の仕事もしっかりやっていきたい</u> です。	⑥(参考3) ⑤(参考1) 仲間の考えから自分の考えを深め、勤労に関し、これからの生活の目標について考えている
多面多角 自分自身	僕は <u>道下さんのように</u> 貢献しようという気持ちが強くないので、もっとそういう気持ちを大切にしていきたいです。また、 <u>友だちの意見を聞いて</u> 、そういう視点もあるのだと気づかされました。	④(参考2) ②(参考3) 道下医師を自分に重ねて勤労について考え、また、仲間の考えを通して多様な考え方があることに気づいている

② 選択式自己評価の分析

授業1における、選択式自己評価の回答で○をつけた生徒の割合を【表6】に示す。

【表6】 授業1における選択式自己評価の回答結果

	◆学習を振り返って今の自分にあてはまるものに○をつけてください。	%
多面・多角	① 今日のテーマに関して新しい発見があった	88
自分自身	② 仲間の考えが自分の考えを深めることになった	85
多面・多角	③ 授業を通していろいろな考え方があることに気づいた	88
自分自身	④ 登場人物と自分を重ねて考えてみた	42
自分自身	⑤ これからの自分の生活や生き方への目標や課題に気づいた	61

展開において、主人公の内面の葛藤をじっくり考えさせたり、日常生活と重ねさせたりすることが少なくなってしまうことが④⑤の数値に影響したと思われる。また、「勤労」という主題が、生徒たちにとって「将来の仕事」というイメージが強く、目の前の現実問題として考え切れなかったことも理由として考えられるので、指導過程の工夫・改善の必要性を感じた。

③ 「心に残ったフレーズ」や選択式自己評価を参考にした記述自己評価の分析

授業1における、「心に残ったフレーズ」や選択式自己評価と関連付けた記述自己評価の分析内容（まとめ自己評価前）を【表7】に示す。

【表7】 授業1における「心に残ったフレーズ」等を参考にした記述自己評価の分析内容

記述		①(参考3)
	授業前の考えでは、職業のことでしか考えていなかったけれど、学習を通して「働く意義」について考えられました。	働く意義について、社会貢献や働く喜びという新しい発見を得ている
心に残ったフレーズ	<p style="text-align: center;">社会貢献することで感謝される</p> <p style="text-align: center;">↑</p> <p style="text-align: center;">社会生活の発展, 向上</p>	

記述自己評価では、道徳的価値について考えが変わったことを記述しているが、どのように変わったかを見取ることができなかった。また、選択式自己評価でも全ての項目が「あてはまる」という自己評価であった。しかし、「心に残ったフレーズ」に「社会生活の発展」や「感謝」という言葉が書かれてあったので、この生徒は「社会貢献」やそのことが働く喜びにもつながることを捉えたと判断し、「多面的・多角的な見方への発展」を軸に、具体的な言葉を補って評価を行った。

(イ) 教師による授業や学習シートからの見取り

本時は、展開において一人で考えている様子を中心に観察を行った。テキストに線を引きながら読んでいる生徒からは、叙述に沿ってじっくり考えようとしていると見取った。学習シートに道徳的価値に迫っている内容を書いていたのに、書き終えてしばらくしてから自分で消してしまった生徒もいた。本来、作文が得意なのになかなか書き始めることができない生徒もあった。これらの生徒の姿から、悩みながら慎重に考えを整理しているを見取った。

学習シート中の「あなたはそんな道下医師にどんな言葉をかけるか」という発問に対しては、「いつもありがとうございます」や「おつかれさまです」という言葉を書いている生徒が多かった。献身的に尽くす道下医師に感謝の気持ちがあることを見取ることができた。

(2) 授業2について

ア 本時の構想

道徳科学習指導案

- 1 主題名 安心して暮らせる社会の第一歩について考える [C-11 公正, 公平, 社会正義]
教材名 わたしのせいじゃない (出典 日本文教出版 「あすを生きる 2年」)
- 2 ねらい 人々が安心して暮らせる公平で平和な世界を願い, 進んでその実現に努めようとする心情を養う。
- 3 主題設定の理由

(1) 価値について

小学校高学年の内容項目[公正, 公平, 社会正義]では, 「誰に対しても差別をすることや偏見をもつことなく, 公正, 公平な態度で接し, 正義の実現に努めること」を目標としている。中学校では, 「正義と公正さを重んじ, 誰に対しても公平に接し, 差別や偏見のない社会の実現に努めること」とある。小学校における指導内容を更に発展させ, 中学校では, 公のことに自分のこととの関わりや社会の中における自分の立場に目を向け, 不正を憎み, 不正な言動を否定するほどのたくましい態度が育つように指導することが大切である。

本授業では, 現代社会の問題について, 単に現状を諦めて見過ごすのではなく, 道徳上どのような問題があるかを考え, 正義と公正を実現するために力を合わせて努力する必要があるということをつえ, 実現しようとする心情を育てたい。

(2) 生徒について

生徒は, 中学校生活や人間関係にも慣れてきて友好的な集団生活を送っているが, その反面, 周囲で不公正があっても, 多数の意見に同調したり傍観したりするだけで, 制止することができないこともある。また, 現実の社会の在り方や問題点にも目を向け始めてきているものの, 他人事のように捉えている生徒も少なくない。そこで, 本教材を通して, 傍観や無関心, 同調圧力に流されることも不公正であることに気付かせたい。

(3) 教材について

本教材は, 日本文教出版「あすを生きる 2年」に収録されている読み物教材である。

一人の男の子が泣いている。始まりは知らない, 泣いている子がおかしい, みんなもやっている, わたしのせいじゃないと14人の子たちの言い訳が続く。誰も声を上げて止めないとうとう何事かになってしまったのか考えさせる内容の絵本である。

(4) 指導にあたって

生徒の実態と教材の特質から, 道徳的価値について, よりよい社会を実現するために大切なことは何かを考える授業とし, 学習テーマを「安心して暮らせる社会にするための第一歩について考える」と設定する。教材を通して, 望ましい社会の理想を掲げ, その実現に積極的に努めようとする心情を育てたい。そこで, 本教材を通して, 生徒にとって身近な問題であろういじめに関する問題点の中でも見逃しがちな傍観, 無関心, 多数に同調することに焦点を当て, 知っていながらも何もしないでいる人や, 感じようとしていないでいる人も影響していることに気付かせたい。さらに, 現実の社会問題に関する写真を提示し, 自他の不公正に気づき, 公正公平で平和な世界は地球上のみんなが関わってつくっていくものであるということを理解し, 実現しようとする心情を育てたい。

4 研究との関わり

(1) 生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を見取る方法・場面

ア 主に多面的・多角的な見方への発展を促す方法・場面

展開 5 (1) では、4 人グループ、さらに学級全体の二段階の対話場面を設定し、より多様な判断・理由を表出させ、多面的・多角的にいじめに関する問題点を分析させる。展開 6 では、身近なところから世界の問題に視点を広げ、世界の問題や自分の生き方などにも言及できるようテーマに関わる資料写真を再提示しながら教師の説話を行う。

イ 主に自分自身との関わりでの価値の深まりを促す方法・場面

価値についてより自分事として捉えられるよう、展開 4 では、もし自分が教室内の「その子」だったら、どんな気持ちか考えさせる。展開 5 (2) においては、無関心、傍観、多数に同調することは悪いことなのか判断する際に、「自分だったら」という考えが関わるよう判断の中に「しかたがない」という選択肢を入れる。

(2) 本時における記述自己評価分析表

	参考 1	参考 2	参考 3
多面的・多角的な見方への発展	① 道徳的価値に関わる問題に対する判断の根拠や心情を様々な視点から捉え考えようとしている 【展開 5 (1) p. 22】		
	安心して暮らせる社会について、登場人物の心や状況を多様な角度から捉え、公正、公平、社会正義の大切さを感じている	安心して暮らせる社会について、登場人物の心や状況を多様な角度から捉え考えられている	教材について、新たな見解を得たと感じている
	② 自分と違う立場や考え方、感じ方を理解しようとしている 【展開 6 p. 23】		
	安心して暮らせる社会の実現には、多様な考え方・感じ方があることを理解し、自分の考えを更に広げている	安心して暮らせる社会の実現には、多様な考え方・感じ方があることを理解している	教材について、多様な考え方があることに気付いている
自分自身との関わり	④ 登場人物を自分に置き換えて考え、具体的にイメージして理解しようとしている 【展開 4 p. 22】		
	登場人物を自分に重ね、人物に寄り添いながら安心して暮らせる社会についての理解をさらに深めている	登場人物を自分に重ね、安心して暮らせる社会について考えている	登場人物を自分に重ね、教材について考えようとしている
	⑤ 現在の自分自身を振り返り、自らの行動や考えを見直している 【展開 5 (2) p. 23】		
	公正、公平、社会正義に関し、これまでの自分を見直し、これからの生活や生き方の目標や課題を考えている	公正、公平、社会正義に関し、これまでの自分はどうだったか見直している	教材を通し、これからの自分の生活や生き方への目標や課題について考えている

5 本時の展開

	学習活動と主な発問	予想される生徒の反応	指導上の留意点
導 入	<p>1 本時に関わる問題意識をもつ。</p> <p>(1) 資料の写真を提示し、どのような状況のものか簡潔に説明する。</p>		<p>教材の内容に興味や関心をもたせる。</p> <p>*原爆（戦争）・干ばつ（環境破壊）・迫害の写真</p>
	<p>2 本時の学習の方向性を確認する。</p>		
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 学習テーマ 「安心して暮らせる社会にするための第一歩」について考える </div>		
	<p>3 教材を読み、内容を確認する。</p>		
展 開	<p>4 自分との関係で問題を捉える。</p> <p>(1) もし、あなたが「その子」だったらどんな気持ちか。</p>		<p><自分自身との関わりでの価値の深まりの見取り></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>④登場人物を自分に置き換えて考え、具体的にイメージして理解しようとしている</p> <p>価値について自分事として捉えるため「あなたはどんな気持ちか」と発問する</p> </div>
	<p>5 登場人物の気持ちや行動について考える。</p> <p>(1) 14人の子たちの問題点を考えよう。</p> <p><問題点を考える></p> <p><考えをもとに話し合う></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・見て見ぬふり ・暴力 ・差別 ・偏見 ・悪口 ・無関心 ・傍観 ・多数に同調 	<p><多面的・多角的な見方への発展の見取り></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>①道徳的価値に関わる問題に対する判断の根拠や心情を様々な視点から捉え考えようとしている</p> <p>自分では気づかなかった発見を得るために他者との交流の場を設定する</p> </div>

	<p>(2) 無関心や傍観，多数に同調は悪いことなのだろうか。</p> <p><判断を考える></p> <p><判断と理由を話し合う></p> <p>6 道徳的価値について，さらに考えを深める。</p> <p>(1) 教師の説話を聞く。</p>	<p>○悪い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・困っている人に手を差しのべないのはかわいそう <p>○仕方がない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・悪いとは思うけれど自分だったら勇気がない <p>○悪くない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分だって被害を受けるかもしれないから関わらないほうがいい 	<p><自分自身との関わりでの価値の深まりの見取り></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>⑤現在の自分自身を振り返り，自らの行動や考えを見直している</p> <p>「自分だったら」という考えが関わるように，学習シート内の判断の中に「仕方がない」という選択肢を入れる</p> </div> <p>*導入の写真を再提示する。</p> <p>*現在，世界中に存在する戦争や紛争，迫害，環境問題の援助活動を行っているたくさんの人がいることに触れる。</p> <p><多面的・多角的な見方への発展の見取り></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>②自分と違う立場や考え方，感じ方を理解しようとしている</p> <p>価値について身近なことから広げて考えていくために，テーマに関する写真を提示する</p> </div>
<p>終末</p>	<p>7 本時の自己を振り返る。</p> <p>(1) 自己評価シートに今日の振り返りを書いてください。</p>		

イ 本時の評価

(ア) 自己評価

分析にあたってはp. 21の「本時における記述自己評価分析表」の項目を中心に、p. 5の【表1】記述自己評価分析表を基にして、生徒の記述等から分析する。

① 記述自己評価の分析

授業2における、記述自己評価の分析内容（まとめ自己評価前）を【表8】に示す。

【表8】授業2における記述自己評価の分析内容

	生徒による記述自己評価	分析内容
多面的・多角的な見方への発展	「誰かが助ける」、「知らない」、「一人では止められなかった」などは、自分に無責任だと思った。理由は、自分がいじめられたときは助けてほしいのに、人がいじめられていたら助けないというのは、無視していじているのと同じではないかと思うからだ。	①(参考2) 安心して暮らせる社会について、絵本の子どもたちの心を多様な角度から捉え考えている
	子どもたちの話のところでは、B、D、Eさんの言動は仕方ないと少し思っていました。世界で考えてみると、こんな言動が許されることは絶対あってはいけないんだと思いました。このようなことで大勢の人たちが苦しんでいるということを改めて実感しました。	②(参考2) 安心して暮らせる社会の実現には、多様な感じ方・考え方があることを理解している
自分自身との関わり	今日の学習で、今も世界中でたくさんの子どもが亡くなっているということがわかった。私もDの人のように、もし、目の前でいじめられている子がいても、何もできないでただ見ているだけなんだろうなと思った。	④(参考3) いじめを傍観している子と自分を重ね、教材について考えようとしている
	今日の授業で、見て見ぬふりをしたり、勇気がないからと言って行動にうつさないのは悪いと思いました。でも、実際、自分と重ね合わせて考えてみたら、私も同じようなことをしているんじゃないかと考えました。これからは、社会で起こっている問題や身近で起こっている出来事にしっかりと関心を持ち、自分がどうしたら良いのか考えていきたいです。	⑤(参考1) 公正、公平、社会正義に関し、これまでの自分を見直し、これからの生活や生き方の目標や課題を考えている
多面多角 自分自身	僕は「安心して暮らせる社会」をつくるためには戦争をなくすことしか考えませんでした。しかし、環境問題や自然災害をなくすことも大切だということがわかりました。特に、この2つは、日常生活でも意識するだけで被害を受けている人々を支えることができると思います。人を頼るのではなく、他人の考えに流されるのではなく、まず、自分の考えを自分から行動にうつせるようにしていきたいです。	②(参考2) ⑤(参考1) 安心して暮らせる社会の実現には、多様な考えがあることを理解し、これまでの自分を見直し、これからの生活や生き方の目標を考えている

② 選択式自己評価の分析

授業2における、選択式自己評価の回答で○をつけた生徒の割合を【表9】に示す。

【表9】 授業2における選択式自己評価の回答結果

	◆学習を振り返って今の自分にあてはまるものに○をつけてください。	%
多面・多角	① 今日のテーマに関して新しい発見があった	91
自分自身	② 仲間の考えが自分の考えを深めることになった	91
多面・多角	③ 授業を通していろいろな考え方があることに気づいた	91
自分自身	④ 登場人物と自分を重ねて考えてみた	94
自分自身	⑤ これからの自分の生活や生き方への目標や課題に気づいた	59

⑤が少ないことが目立つが、総じて、生徒の受け止め方は高い。教材を映像化して見せたり、また、教材そのものの場面設定が「教室内のいじめ」を想像させるものであったり、生徒にとっては身近なこととして取り組めたのではないかと思われる。ほかの要因としては、展開のスタートが「いじめ」であったので、終末で世界的な問題と発展したことも考えの広がり・深まりにつながったと思われる。

③ 選択式自己評価を参考にした記述自己評価の分析

授業2における、選択式自己評価と関連付けた記述自己評価の分析内容（まとめ自己評価前）を【表10】に示す。

【表10】 授業2における選択式自己評価を参考にした記述自己評価の分析内容

記述	自分たちの身近なところで起きているいじめや、今、世界で起きている差別、戦争などについて理解ができた。みんなが責任を持つことで、世界が少しでも変わっていくんじゃないかと考えた。		①(参考3)
選択式	①今日のテーマについて新しい発見があった	○	安心して暮らせる社会について考え、大切なのは、すべての人たちが責任を持つことと感じている
	②仲間の考えが自分の考えを深めることとなった	○	
	③授業を通していろいろな考え方があることに気づいた	○	
	④登場人物と自分を重ねて考えてみた	○	
	⑤これからの自分の生活や生き方の目標や課題に気づいた		

記述自己評価では、道徳的価値の理解のもと考えたことを記述しているが、どんなことをきっかけとしてそう考えたのか見取ることができなかった。選択式自己評価では、新しい発見や考えの広がりを感じている様子が伺えたので、「多面的・多角的な見方への発展」を軸にした評価を行った。

(イ) 教師による授業や学習シートからの見取り

本時は、終末における自己評価を記入する様子を中心に観察を行った。少し難しい顔をしながら黒板をじっと見て記述に取り組んでいる生徒、たくさん記述していたが実は書き始めるのにとっても時間がかかった生徒たちからは、自分の判断について慎重に考えていると見取った。

また、展開5においての教師の発問では、大きく頷いたり首を振ったり、つぶやいたりする生徒もおり、心が揺さぶられている様子をうかがうことができた。

(3) 授業3について

ア 本時の構想

道徳科学習指導案

- 1 主題名 どっちの靴にする？ [A-4 希望と勇気，克己と強い意志]
教材名 まほうのスケート靴 (出典 NHK for school「ココロ部！」)
- 2 ねらい 大事な試合前，二つの製品のどちらを使うか悩む主人公の葛藤を通して，様々な状況を多角的に捉え，目標の達成には何が必要かを自分で見出そうとする判断力を育てる。
- 3 主題設定の理由
 - (1) 価値について
小学校高学年の内容項目[希望と勇気，努力と強い意志]では，「より高い目標を立て，希望と勇気をもち，困難があってもくじけずに努力して物事をやり抜くこと」を目標としている。中学校では，[希望と勇気，克己と強い意志]について「より高い目標を設定し，その達成を目指し，希望と勇気をもち，困難や失敗を乗り越えて着実にやり遂げること」とある。小学校における指導内容を更に発展させ，中学校では，目標の達成には何が必要かを考えさせること，また，希望をもつが故に直面する困難や失敗を，勇気をもって受け止め乗り越えていくことの大切さを自覚させることが求められる。そして，困難や失敗を乗り越えるための自分なりの方法や信念を持ち，よりよい生き方を目指すための判断力の重要性を理解させたい。
 - (2) 生徒について
入学して間もない時期は，希望に燃え，将来に向けて大きな目標を立てるものの，学年が上がるにつれて，挫折や失敗を恐れる余り，プレッシャーやストレスを強く感じて安易な選択をしてしまう生徒も見られるようになる。そこで，本教材を通して，目標の実現に関わる問題を周囲の状況，条件，結果，心情など多角的に捉えたうえで判断することが，納得や満足につながるということに気付かせたい。
 - (3) 教材について
本教材は，NHK for school「ココロ部！」による映像教材である。この番組は，考える力やコミュニケーションを楽しみながら身につけることを目的として制作されている。
主人公のコジマくんはスピードスケート選手である。オリンピック出場か引退かを賭けた最後の試合前，他の選手たちがジェットウィナーというスケート靴を使い自分の記録に迫ってきていることを知る。最後の試合に向けて，自分もジェットウィナーを履けば勝てるかもしれないと思うコジマくん。しかし，ココロスポーツというスポーツ用品メーカーと契約し，これまで支えられてきたということもある。目標達成のためにジェットウィナーを履くか，ココロスポーツの靴を履いて戦うか悩むという内容である。
 - (4) 指導にあたって
生徒の実態と教材の特質から，学習テーマを「どっちの靴にする？」と設定する。教材を通して，多角的に思考し判断することを通して，よりよい生き方を考えさせたい。そこで，本教材を通して，コジマくんの葛藤に共感させ，目標の達成に関わってはさまざまな困難があることを捉えさせる。そのうえで，目標に対して悔いなく挑戦するために，総合的に考えて自分自身で覚悟を決め判断する力を育てたい。

4 研究との関わり

(1) 生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を見取る方法・場面

ア 主に多面的・多角的な見方への発展を促す方法・場面

コジマくんが迷っている理由を多角的に思考させるために、展開3(1)において、ジェットウィナーを「履く」「履かない」の両面から考え、さらに深めるための発問や話し合いの場面を設定する。展開5では、最終的な判断には、周囲の状況、条件、もたらされる結果等が関わっていることを捉えさせるために、根拠を明確にして話し合わせる。

イ 主に自分自身との関わりでの価値の深まりを促す方法・場面

展開4では、判断の難しさを感じるために、メリット・デメリットを捉えた後に、自分ならどうするかと問う。また、自分の判断や考え方をよりよいものに見直していくために、判断理由について根拠を示しながら話し合わせ、教師からも追質問して揺さぶりをかける。その中で、道徳的価値の実現は容易ではない場合もあることや、そうした中で自分が目標に向かう際に大切にしたいことを考えさせる。

(2) 本時における記述自己評価分析表

	参考1	参考2	参考3
多面的・多角的な見方への発展	① 道徳的価値に関わる問題に対する判断の根拠や心情を様々な視点から捉え考えようとしている 【展開3 p.28】		
	目標を達成するためにどちらを選択するかについて、人物の心情や状況を多様な角度から捉え、総合的に判断することの大切さを感じている	目標を達成するためにどちらを選択するかについて、人物の心情や状況を多様な角度から捉え考えている	目標を達成すること関わって、新しい発見を得たと感じている
	③ 複数の道徳的価値の対立する場面において取り得る行動を広い視野から多面的・多角的に考えようとしている 【展開4 p.29】		
	自分の夢、人々の思い等が対立した場合の判断や行動を様々な視点で捉え、根拠を明確にして現実と結び付けて考えている	自分の夢、人々の思い等が対立した場合の判断や行動を様々な視点で捉え、根拠を明確にして考えている	自分の夢、人々の思い等が対立した場合の判断や行動について考えている
自分自身との関わり	⑦ 道徳的価値を実現することの難しさを自分のこととして捉え考えようとしている 【展開4 p.29】		
	目標の達成には様々な困難があるが、自分で判断することは大切だと感じ、どういう自分でありたいか考えている	自分や日常生活と重ね、目標の達成には様々な困難があるが、自分で判断することは大切だと考えている	自分や日常生活と重ね、目標の達成には様々な困難があることを感じている
	⑥ 道徳的な問題に対して自己の取り得る行動を他者と議論する中で、道徳的価値の理解を更に深めている 【展開4 p.29】		
	どちらの靴を選ぶか自分の行動を予想し、仲間との議論で目標を達成するための判断の大切さや必要さを感じている	どちらの靴を選ぶか自分の行動を予想し、仲間との議論で目標を達成するための判断について更に深めている	仲間との議論を通して、自分の考えを深めることができたと感じている。

5 本時の展開

	学習活動と主な発問	予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入	<p>1 本時の学習の方向性を確認する。</p> <p>(1) 勝つために、速く走ることができる靴と普通の靴のどちらを選ぶか。</p>	<p>・速く走ることができる靴</p>	<p>教材の内容に興味や関心をもたせる。</p> <p>* 2種類の色紙を配布し、その場で全員意思表示をさせる。</p>
	<p>2 教材を視聴し、あらすじを確認する。</p>		
展開	<p>3 登場人物の気持ちを考える。</p> <p>(1) コジマくんが迷う理由を、ジェットウィナーを「履く」「履かない」の両面から考えよう。</p> <p><迷う理由を考える></p> <p><理由を話し合う></p>	<p>○履く</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリンピックは夢だった ・勝てる可能性があるなら頼りたい ・ずっと努力してきたから最後は報わりたい ・自分の夢は、応援してくれるみんなの願いでもある ・ココロスポーツにお願いしてこの試合だけジェットウィナーを履く <p>○履かない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・契約を破るなんて自分にはできない ・ココロスポーツにはたくさん世話になってきた ・違約金がかかる ・ココロスポーツの靴でここまで来た 	<p><多面的・多角的な見方への発展の見取り></p> <p>①道徳的価値に関わる問題に対する判断の根拠や心情を様々な視点で捉え考えようとしている</p> <p>多角的な思考を促すために、迷いを両面から考えさせる発問をする</p>

<p>4 自分との関係で、問題について考える。</p> <p>(1) あなただったら、引退を覚悟した最後の試合を悔いなく終えるためにどうするか。</p> <p><判断と理由を考える> <判断と理由を発表する></p>	<p>○履く</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夢のラストチャンスでもあるから履く ・みんなが履いて記録を伸ばして自分が負けたら後悔すると思うから履く <p>○履かない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの自分のやってきた努力を信じて履かない ・ココロスポーツを裏切るのはつらいから履かない 	<p><自分自身との関わりでの価値の深まりの見取り></p> <p>⑦道徳的価値を実現することの難しさを自分のこととして捉え考えようとしている</p> <p>判断の難しさを感じるために、メリット・デメリットを捉えた後に、自分ならどうするかと問う</p> <p>⑥道徳的な問題に対して自己の取り得る行動を他者と議論する中で、道徳的価値の理解を更に深めている</p> <p>自分の考え方を見直すきっかけとなるよう、根拠を明確にして話し合う場面を設定する</p> <p><多面的・多角的な見方への発展の見取り></p> <p>③複数の道徳的価値の対立する場面において取り得る行動を広い視野から多面的・多角的に考えようとしている</p> <p>複数の道徳的価値が関わった判断になっているか確認するために、他の問題点についての追質問をする</p> <p>* 事前に配布していた2種類の色紙で意思表示を示す。</p> <p>* 「私たちの道徳」の曾野綾子の言葉を引用する。</p>
<p>終末</p>	<p>6 本時の自己を振り返る。</p> <p>(1) 自己評価シートに今日の振り返りを書いてください。</p>	

イ 本時の評価

(ア) 自己評価

分析にあたっては p. 27 の「本時における記述自己評価分析表」の項目を中心に、p. 5 の【表 1】記述自己評価分析表を基にして、生徒の記述等から分析する。

① 記述自己評価の分析

授業 3 における、記述自己評価の分析内容（まとめ自己評価前）を【表 11】に示す。

【表 11】授業 3 における記述自己評価の分析内容

	生徒による記述自己評価	分析内容
多面的・多角的な見方への発展	今日、学習して「夢・希望」、「契約・会社」、「人々の思い」、「自分の実力」など <u>いろいろな面から考えると</u> 、履かか履かないか悩みました。でも、信頼や契約を守るために、履かないほうが良いと思いました。	①(参考 2) 目標を達成するためにどちらを選択するかについて、人物の心情や状況を多様な角度から捉え考えている
	ココロスポーツを裏切るかファンや身内の期待を裏切るか、 <u>人それぞれ(の判断)でいいと思った</u> 。でも、 <u>どちらの判断をしても悲しむ人や喜ぶ人が出る</u> ので難しいと思った。	②(参考 1) 目標を達成するための判断には、多様な考え方があることを理解し、さらに自分の考えを広げている
自分自身との関わり	最初の質問では、単純に靴の性能だけで(自分の判断を)決めていましたが、契約であったり、人々の思いであったり、さまざまな思いの中で <u>判断するのはとても難しいこと</u> だとわかりました。また、その中で、 <u>自分の悔いの残らない方法を選ぶということも大切</u> だと感じました。	⑦(参考 2) 自分と重ね、目標を達成するにはさまざまな困難があるが、自分で判断することは大切だと考えている
	最初は「速く走ることができる靴」を選んだのですが、いろいろと条件が出てきたり、 <u>他の人の意見を聞いたり</u> しているうちに「ふつうの靴」に変えました。やはり、今まで近くで支え続けてくれた人たちに恩を返すならその会社の製品を使うほうがよいと思ったからです。また、 <u>物に頼り過ぎないのも大切</u> だと思いました。「実力」も一つの武器になると思うので、使い方を考えたいです。	⑥(参考 1) どちらの靴を選ぶか自分の行動を予想し、仲間との議論で目標を達成するための判断の大切さや必要さを感じている
多面的多角 自分自身	今日の学習では、(目標達成のための)二択でも、条件が加わるととても考えにくくなることわかりました。また、 <u>いろいろな立場になって考えると</u> 、どちらの考えにもメリットとデメリットがたくさん存在することがわかりました。 <u>私は、人に任せてしまうことが多い</u> ので、条件をしっかりと考え、相手の責任にするのではなく、 <u>どの判断をしても自分で責任をとれるように</u> したいです。	①(参考 2) ⑤(参考 1) 目標を達成するためにどちらを選択するかについて多様な角度から考え、更に、これまでの自分を見直し、これからの生き方の目標を考えている

② 選択式自己評価の分析

授業3における、選択式自己評価の回答で○をつけた生徒の割合を【表12】に示す。

【表12】 授業3における選択式自己評価の回答結果

	◆学習を振り返って今の自分にあてはまるものに○をつけてください。	%
多面・多角	① 今日のテーマに関して新しい発見があった	81
自分自身	② 仲間の考えが自分の考えを深めることになった	94
多面・多角	③ 授業を通していろいろな考え方があることに気づいた	94
自分自身	④ 登場人物と自分を重ねて考えてみた	84
自分自身	⑤ これからの自分の生活や生き方への目標や課題に気づいた	81

総じて生徒の受け止め方は高い。本時は、視覚に訴えたり、全員で一斉に反応を示させたりし、学びの波に乗れる生徒が増えたように感じた。そのことが、②③の数値に影響したと考えられる。また、授業実践2, 3に比べて⑤の数値が上がったのは、「自分ならどう判断するか」という視点で考える場面を2回設定したことから、より自分自身と関わらせることができたと思われる。

③ 「学習前」の記述や選択式自己評価を参考にした記述自己評価分析

授業3における、「学習前」の記述や選択式自己評価と関連付けた記述自己評価の分析内容(まとめ自己評価前)を【表13】に示す。

【表13】 授業3における学習前の記述等を参考にした記述自己評価の分析内容

【前】『どっちの靴にする？』 速く走ることができる靴は履かない		⑤(参考2)
記述	様々な条件を出されることによって、悩んでいる自分がいた。何も考えずに答えるのはわけがちがうということがわかった。	目標を達成するための判断について、これまでの自分を見つめ、熟考して判断しなければならぬと気づいている

記述自己評価では、「多面的・多角的な見方への発展」か「自分自身との関わり」か、判断が難しかった。また、選択式自己評価では全ての項目において「あてはまる」という自己評価があった。しかし、学習前から「速く走ることができる靴」を選択していない様子から、考えの広がりや変容より、自分自身を見つめ、悩みながら新たな発見を得たと受け止め、「自分自身との関わり」を軸に、具体的な言葉を補って評価を行った。

(4) 教師による授業や学習シートからの見取り

本時は、展開におけるグループ内の学び合いの様子を中心に観察を行った。積極的によく語りかけている生徒からは自分の考えを伝えようとしている様子を、やさしい表情で聞きながら聞いている生徒からは仲間の思いを受け止めようとしている様子を見取ることができた。また、本時は2色の「意思表示カード」の教具を用意した。導入と展開終末において「どちらの靴を選ぶか」と同じ発問をし、カードの提示により考えが変化したことをはっきりと見取ることができた。

学習シートには、なぜその判断に至ったかの理由が書かれていた。その理由から多面的・多角的に思考しているか見取ることができた。

(4) 授業4について

ア 本時の構想

道徳科学習指導案

- 1 主題名 深い思いやりについて考える [B-6 思いやり, 感謝]
教材名 最後の年越しそば (出典 廣濟堂あかつき「中学生の道徳 2」)
- 2 ねらい ガンの告知や父の生き方に込められた思いやりを考えることを通して、自分のことばかりを考えず、相手の気持ちや立場に立って考えようとする思いやりの心を持って人と接しようとする心情を養う。

3 主題設定の理由

(1) 価値について

小学校高学年の内容項目[思いやり]では、「誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にすること」、また、[感謝]では、「日々の生活が家族や過去からの多くの人々の支え合いや助け合いで成り立っていることに感謝し、それに応えること」を目標としている。中学校では、[思いやり, 感謝]について「思いやりの心をもって人と接するとともに、家族などの支えや多くの人々の善意により日々の生活や現在の自分があることに感謝し、進んでそれに応え、人間愛の精神を深めること」とある。小学校における指導内容を更に発展させ、中学校では、単に思いやりの大切さに気付くだけでなく、相手の立場や気持ちに対する配慮、そして、感謝の対象の広がりについても理解を深めていくことが大切である。さらに、重荷にならないようにと配慮された思いやりに気づき、人間的交わりを深めようとする道徳的心情を育てたい。

(2) 生徒について

中学生のこの時期は、人間としての生き方についての関心が高くなり、他者と関わりをもつことの大切さを理解できるようになっている。しかし、頭ではわかっているが、とかく利己的、自己中心的な言動に走ることも少なくない。また、自分の立場を優先することが多く見られる時期でもある。このような時期に「思いやり」とはどのようなことであるかをしっかりと考えさせ、他者の気持ちや立場に立って考えることを優先した思いやりの尊さについて考えさせたい。

(3) 教材について

本教材は、廣濟堂あかつき「中学生の道徳2」に収録されている読み物教材である。

余命2か月であることを知ってしまった筆者の父が、正月を自宅で家族と過ごすことを願う。家族も、楽しい正月にしてやろうと思う。しかし、ようやく外泊許可がおりたときには「帰らない」と言い出し、自分の願いよりも、身寄りのないお年寄りに年越しそばを振る舞うことを選んだ。筆者はそんな父に腹が立ったが、残りわずかな命でも気の毒に思う人に対して温かい思いやりをもつ、その姿に心を打たれたという内容である。

(4) 指導にあたって

生徒の実態と教材の特質から、道徳的価値について人間としてよりよく生きる上で大切なものは何かを考える授業とし、学習テーマを「深い思いやりについて考える」と設定する。そこで、本教材を通して、ガンで余命2か月の父に対しての娘である筆者や家族の思いやりを捉えた後、資料の後半で父が自身の最期の生き方に求めたものを考えさせたい。そして、自分が辛い状況でも他者のことを考えた行動ができるという人間愛の精神に基づく深い思いやりの大切さやすばらしさに気付かせたい。

4 研究との関わり

(1) 生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を見取る方法・場面

ア 主に多面的・多角的な見方への発展を促す方法・場面

父が家に帰らなかった行動について、身寄りのないお年寄りに対する憐れみや同情以上のものがあることを捉えるために、展開4(3)において、他者との交流の場を設定する。

イ 主に自分自身との関わりでの価値の深まりを促す方法・場面

展開4(3)において、自分が辛い状況でも他者を思いやる難しさを自分事として考えられるよう、帰宅しないこととした父の心情の変化に着目するような発問を行う。展開5では、価値を日常的なレベルで捉えられるよう、教師が日常生活で感じた深い思いやりに関するエピソードと共に、父の笑顔に触れ、相手の重荷にならないよう配慮された思いやりについて説話を行う。また、終末において、筆者の視点で価値について考えられるよう、振り返りの記述に筆者が父から学んだことについて触れるよう指示する。

(2) 本時の記述自己評価分析表

	参考1	参考2	参考3
多面的・多角的な見方への発展	① 道徳的価値に関わる問題に対する判断の根拠や心情を様々な視点から捉え考えようとしている 【p34 展開4(3) p.34】		
	父の行動について、父の心情や状況を多様な角度から捉え、深い思いやりの大切さを感じている	父の行動について、父の心情や状況を多様な角度から捉え考えている	授業を通して、新しい発見を得たと感じている
自分自身との関わり	⑦ 道徳的価値を実現することの難しさを自分のこととして捉え考えようとしている 【展開4(3) p.35】		
	自分が辛いときに他人を思いやることは難しいが、必要なことと感じ、どう自分でありたいか考えている	自分や日常生活と重ね、自分が辛いときに他人を思いやることは難しいが、大切なことであると考えている	自分や日常生活と重ね、自分が辛いときに他人を思いやることは難しいことを認めている
	⑤ 現在の自分自身を振り返り、自らの行動や考えを見直している 【展開5 p.35】		
	深い思いやりに関し、これまでの自分を見直し、これからの生活や生き方の目標や課題を考えている	深い思いやりに関し、これまでの自分はどうだったか見直している	教材を通して、これからの自分の生活や生き方への目標や課題について考えている
④ 登場人物を自分に置き換えて考え、具体的にイメージして理解しようとしている 【終末 p.35】			
登場人物を自分に重ね、人物に寄り添いながら深い思いやりについての理解を深めている	登場人物を自分に重ね、深い思いやりについて考えている	登場人物を自分に重ね、思いやりについて考えようとしている	

5 本時の展開

	学習活動と主な発問	予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入	<p>1 本時に関わる問題意識をもつ。</p> <p>(1) 困ったとき、誰かに親切にされたこと、そのときの気持ちを思い出そう。</p> <p>2 本時の学習の方向性を確認する。</p>		教材の内容に興味や関心をもたせる。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 学習テーマ 「深い思いやり」について考える </div>		
	<p>3 教材を読み、内容を確認する。</p>		* 4 (1) の発問を予告する。
展開	<p>4 登場人物の気持ちや行動について考え、自分との関係で問題を捉える。</p> <p>(1) この話には、どんな思いやりが描かれているか。</p> <p>(2) 父の「家に帰りたい」にはどんな気持ちがあるか。 <父の気持ちを考える> <考えをもとに話し合う></p> <p>(3) なぜ、自分を優先して考えていた父が、家に帰らず他人であるお年寄りに年越しそばを振る舞うことにしたのか。 <気持ちを考える> <考えをもとに話し合う></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・娘が、父に病気のことを知られまいとしている。 ・家族が、最期を父の思いのままに過ごさせようとする。 ・父が、お年寄りに自分の大切な時間を使う。 ・娘が、涙をこらえてそばを食べる。 ・慣れ親しんだ家で過ごしたい。 ・家族と一緒に過ごしたい。 ・やり残したことをしたい。 ・この人たちには家族がないからかわいそうだ。 ・最期の時間を困っている人のために使おう。 ・普段の関わりへの感謝。 ・自分が辛いからこそ他人の辛さもよくわかる。 ・かつて保証人になったこともあるから、困っている人を見過ごせない性格なのでは。 	<p>* これらの気遣いや優しさが相手を思いやっている行動であることを押さえる。</p> <p>* つらいとき、苦しいときに自分に関することを優先する心情を捉える。</p> <p><多面的・多角的な見方への発展の見取り></p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px;"> <p>① 道徳的価値に関わる問題に対する判断の根拠や心情を様々な視点から捉え考えようとしている</p> <p>父の行動が、憐れみや同情以上のものであることを捉えるために、他者との交流の場を設定する</p> </div>

	<p>5 道徳的価値について、さらに考えを深める。</p> <p>(1) 教師の説話を聞く。</p>		<p><自分自身との関わりでの価値の深まりの見取り></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>⑦道徳的価値を実現することの難しさを自分のこととして捉え考えようとしている</p> <p>価値の実現の難しさを自分自身と関わらせて考えられるよう、帰宅しないことにした父の心情の変化に着目するような発問を行う</p> </div> <p>*教師の思いやりに関わるエピソードと共に、教材中のお年寄りの笑顔に触れる。</p> <p><自分自身との関わりでの価値の深まりの見取り></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>⑤現在の自分を振り返り、自らの行動や考えを見直している</p> <p>日常生活や自分自身と重ねて考えられるよう、教師の身近な体験談を話す</p> </div>
<p>終末</p>	<p>6 本時の自己を振り返る。</p> <p>(1) 自己評価シートに今日の振り返りを書いてください。</p>		<p><自分自身との関わりでの価値の深まりの見取り></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>④登場人物を自分に置き換えて考え、具体的にイメージして理解しようとしている</p> <p>「一生涯の中で父が求めたもの」を考えられるよう、振り返りの記述で筆者が父から学んだことについて触れるよう指示する</p> </div>

イ 本時の評価

(ア) 自己評価

分析にあたっては p. 33 の「本時における記述自己評価分析表」の項目を中心に、p. 5 の【表 1】記述自己評価分析表を基にして、生徒の記述等から分析する。

① 記述自己評価の分析

授業 4 における、記述自己評価の分析内容（まとめ自己評価前）を【表 14】に示す。

【表 14】授業 4 における記述自己評価の分析内容

	生徒による記述自己評価	分析内容
多面的・多角的	筆者は、父から後悔しない生き方をすることを学んだと思います。父がしたことは、 <u>他人のためにも自分のためにもなること</u> で、みんな笑顔で過ごしているので、 <u>思いやりは人のためだけではないと思いました。</u>	①(参考 1) 登場人物の行動について、心情や状況を多様な角度から捉え、深い思いやりの大切さを感じている
		⑦(参考 2) 自分や日常生活と重ね、自分が辛いときに他人を思いやることは難しいが、大切なことであると考えている
自分自身との関わり	父は「自分だけじゃなく、周りまで楽しい、幸せだと感じることを求めた」と思います。自分ではなく他人を優先していることから、たくさんの人と一緒に楽しくなりたいと感じたと思います。 <u>父が求めたことは素晴らしいとは思いますが、私自身はまだまだできていないと感じています。</u>	⑤(参考 3) 教材の登場人物のやり取りを通して、これからの自分の生き方の目標について考えている
	筆者は、自分の状況、自分の心配をするのではなく、まわりをちゃんと見て、そこからどうするかを考えることを学んだのではないかと考えました。 <u>私はまわりを見る力が足りないので意識して生きていきたいです。</u>	④(参考 1) 登場人物を自分に重ね、人物に寄り添いながら深い思いやりについての理解を深めている
	筆者は、父から「自分だけが楽しい思いをするのではなく、ときには自分が人を楽しませることも必要だ」ということを学んだのだと思います。 <u>父が一生涯の中で自分に求めたことは、自分が辛いときにも思いやりを忘れないことだ</u> と思います。また、それは、 <u>仕方なくやるのではなく、自分からやるのが大切だ</u> と思います。	④(参考 1) ⑤(参考 3) 登場人物に寄り添いながら深い思いやりについての理解を深め、これからの生き方への目標について考えている
	この学習では、余命告知を受けた「父」をもとに考えていきました。この学習から、僕は、「人間は一生涯の中で何を自分に求めるのか」は、 <u>自分を奥に置き、人のために行動する思いやりの心だ</u> と思いました。今回学んだ父は「他人のため」という心のもと、お年寄りにそばを振る舞っていました。 <u>僕も将来、何か人のためを思う行動をしたいです。</u>	

② 選択式自己評価の分析

授業4における、選択式自己評価の回答で○をつけた生徒の割合を【表15】に示す。

【表15】 授業4における選択式自己評価の回答結果

	◆学習を振り返って今の自分にあてはまるものに○をつけてください。	%
多面・多角	① 今日のテーマに関して新しい発見があった	81
自分自身	② 仲間の考えが自分の考えを深めることになった	88
多面・多角	③ 授業を通していろいろな考え方があることに気づいた	81
自分自身	④ 登場人物と自分を重ねて考えてみた	81
自分自身	⑤ これからの自分の生活や生き方への目標や課題に気づいた	84

総じて生徒の受け止め方は高い。本時は、終末での振り返りに「筆者が父から学んだことは何か。それについてどう思うか」を書くよう指示をしたこともあり、④⑤の数値が高かった。また、自分と関わらせて考えた生徒が多かったことから、「思いやり」は、生徒にとって身近で考えやすく、もっとも大切にしたいと思う道徳性であることがうかがえる。

③ 「心に残ったフレーズ」や選択式自己評価を参考にした記述自己評価分析

授業4における、「心に残ったフレーズ」や選択式自己評価を関連付けた記述自己評価の分析内容（まとめ自己評価前）を【表16】に示す。

【表16】 授業4における「心に残ったフレーズ」等を参考にした記述自己評価の分析内容

記述	今日の学習では、父がどのような気持ちで年越しそばを振る舞ったかや、家族や筆者がどんな気持ちで病状を隠そうとしていたかなどを想像し、交流することができたのでよかったです。	④(参考3) ⑥(参考3)
	心に残ったフレーズ 家族のような存在	登場人物を自分に重ねたり、仲間の考えを参考にしたりしながら、思いやりについて考えている

記述自己評価では、道徳的価値についてどう考えたのかを見取ることができないが、どのような学び方をしたのかについては書かれている。選択式自己評価も全ての項目が「あてはまる」という自己評価であった。しかし、「心に残ったフレーズ」には、全体交流で仲間が発した「家族のような存在」という言葉が書かれてあった。このことから、「自分自身との関わり」を軸にし、記述における、登場人物と自分を重ねて考えた様子に付け足して、仲間の考えも参考にしていることを補って評価を行った。

(4) 教師による授業や学習シートからの見取り

本時は、全体交流でできるだけ多くの生徒を指名し、発言させる場面を設定し、発表と傾聴態度の様子を中心に観察を行った。自己表現が苦手な一番前の座席の生徒が発言するとき、後ろを向いて学級全体に聞こえるように語っていた様子から、この生徒自身の大きな成長を感じることができた。また、話し手に顔や体を向けて聴こうとする生徒からは、仲間の考えを参考にして自分の考えを深めようとする意欲を感じることができた。

学習シートでは、全体交流を通して気になった仲間の発言をメモ欄に記録している様子から新たな発見を得ている姿がうかがえた。

3 一定期間における評価の実践

(1) 評価材料の関連付け

ア 1 単位時間における評価の整理

1 単位時間の学習後には、生徒による記述自己評価を分析した文、もしくは分析表の番号を書き込んでおく。学習活動の見取りメモ欄は、授業メモ等に記しておいたことや学習シートから見取ったことを整理し、書き込んでおく。

1 単位時間で見取ったことを整理するための表を【表 17】に示す。

【表 17】1 単位時間における評価の整理表(授業 3 より)

	記述自己評価分析		学習活動の見取りメモ
生徒 A	③ (参考 2)	自分の夢と人々の思いが対立した場合の判断を様々な視点で捉え、根拠を明確にして考えている	はじめと終わりの「自分だったらどうするか」の問いで自分の意思を示した。グループでも今日は素直に取り組み、振り返りの記述も書いた。
生徒 B	⑤ (参考 3)	人生の選択に関して、これからの自分の生活や生き方への目標や課題について考えている	学習シート、自分の判断の根拠をびっしり書き込んでいる。
生徒 C	③ (参考 1)	自分の夢、人々の思い等が対立した場合の判断について様々な視点で捉え、自分と結びつけて考えている	今日も学習シートにたくさん書き込みをしている。

イ 一定期間の評価のための整理

それぞれの 1 単位時間で見取った状況を整理する際、記述自己評価に関するメモには、生徒の記述に関して特筆すべきことをメモしておく。まとめ自己評価を行うと 1 単位時間直後の学習からの成長を見取ることができる場合もあるので、そういったこともメモしておく。学習活動の見取りまとめには、それぞれの 1 単位時間の学習における活動の様子をまとめておく。

それぞれの 1 単位時間で見取ったことを整理するための表を【表 18】に示す。

【表 18】一定期間の評価のための整理表

	授 1	授 2	授 3	授 4	まとめ	記述自己評価に関するメモ	学習活動の見取りまとめ
生徒 A			③ 2 *			記述振り返りは授業 3 のみ。	授業 3 では意思表示カードを使って自分の意思を示した。
生徒 B	① 3	① 3	⑤ 3	⑦ 1		振り返りに書く文量が回数を重ねるほど増えてきた。書く内容も、はじめは価値についての新たな発見のみであったが、4 回目は価値の実現の難しさと共に、自分の生き方にまで言及した。	学習シート、根拠を明確にして自分の判断を書いている。4 回目の授業では、みんなに体を向けて堂々と発言していた。
生徒 C	⑥ 3	④ 1 ⑤ 2	③ 1	⑦ 1	授 2	自分と関わらせて考えることが多い。まとめ自己評価で授業 2 の自己評価分析に② 1 も加わった。	振り返りはいつも小さな字でびっしり書く。教師の問いに首を振ったり頷いたりして反応を示す。

注 * の③ 2 は p. 5 の【表 1】記述自己評価分析表内の③の視点における参考 2 の学習状況であることを示す。

(ア) 横断的な評価

本実践の横断的な評価は、記述自己評価分析と学習活動のまとめから総合的に判断し、複数の授業の中から、特によい学びがあった1単位時間の学習を取り上げることとした。

この中で横断的な評価としたのは生徒A、生徒Cである。一枚自己評価シートをもとに記述自己評価分析を比較してみると、生徒Aは、授業3に意欲的に取り組んだので、ぜひ授業3を取り上げ、よさを認め、励ます評価を行いたいと考えた。生徒Cは、授業2において二つの視点で振り返っていたが、まとめ自己評価では授業2についての価値の捉えがさらに深まっている様子が見受けられた。また、生徒C自身も「もっとも自分のこれからは生かしていこうと思った授業」として授業2を挙げていた。生徒Cの、一定期間後でも自分なりの納得解を求めて考える姿勢を受け止め、励ましたいと考え、授業2を取り上げることとした。

(イ) 縦断的な評価

本実践の縦断的な評価は、記述自己評価分析と学習活動のまとめを通して、授業の回数を重ねるごとに成長している点を取り上げることとした。

生徒Bは、それぞれの学習における記述自己評価分析を比較した場合、特に授業4における記述自己評価内容や学習活動によさが見受けられた。しかし、一枚自己評価シートをもとに記述自己評価分析を追っていくと、授業を重ねるごとに記述の文量が増え内容にも進歩が感じられることが見えてきた。以上のことから、生徒Bについては、授業の回数を重ねるごとに成長してきた記述自己評価に表出する姿を認め、励ます評価を行うこととした。

(2) 評価文の実際

一定期間における評価をまとめた表を【表19】に示す。

【表19】一定期間の評価一覧

	評価の中心		評価文
			通知表評価文
生徒A	授3	③ (参考2)	「まほうのスケート靴」の授業では、自分の判断をしっかりと示していました。そして、自分の夢と人々の思いが対立した場合の判断を様々な視点で捉え根拠を明確にして学習シートに書くことができました。
			「まほうのスケート靴」の授業では自分の判断をしっかりと示しました。学習後も、自分の夢と人々の思いが対立した場合、他者を傷つけることはしたくないという根拠をもとに自分の判断に自信を持つことができました。
生徒B	記述 中心	学習状況	学習後の振り返りでは、回数を重ねるごとに記述する文量が増えてきて、学んだことについての自分の目標を書くようになり、自分自身と関わらせて考えるようになりました。
			学習後の振り返りは、回数を重ねるごとに記述する文量が増えてきて、テーマに関する自分の目標を書くようになり、自分自身と関わらせて考えたり、自信をもってクラス全体に考えを伝えたりするようになりました。
生徒C	授2	⑤ (参考2)	「わたしのせいじゃない」の授業では、人物に寄り添いながら安心して暮らせる社会について考え、これまでの自分を見直していましたが、授業後からさらに考えを広げ、世界はどうあるべきか書くことができました。
		④ (参考1)	
		② (参考1)	「わたしのせいじゃない」の授業では、人物に寄り添いながら公正、公平、社会正義について考え、これまでの自分を見直していましたが、授業後は安心して暮らせる社会の実現に必要なことまで考えることができました。

記述自己評価の分析は重要なポイントであると捉え、分析は何度も確認したので時間はかかったが、評価文は、p. 9の「見取りの関連付けの例」を参照したことで比較的スムーズに作成することができた。手順が整理されたことで、分析以降の負担はあまりなかった。

このような過程を通じた評価文は、通知表で使用することを目的としたものであったが、やはり画一的な印象は否めない。そこで、評価文をベースにし、生徒らしさが見えてくるよう、生徒の姿を思い浮かべながら具体的な言葉を補って書き改めた。そして、今回の実践では、通知表評価文に書き直した文を評価として生徒にフィードバックを行った。個人内評価を記述することは手間がかかることではあるが、生徒の言葉に感心したり共感したりしながら行う評価活動は、教師自身にとっても喜ばしく楽しい作業であると言える。

4 結果の考察

(1) 見取りの手立ての有効性

ア 1単位時間における学習状況を見取る手立て

(ア) 1単位時間の自己評価による記述自己評価

授業中の観察からの見取りが難しい生徒の自己評価の記述例を【表 20】に示す。

【表 20】授業中の観察からの見取りが難しい生徒の自己評価の記述例

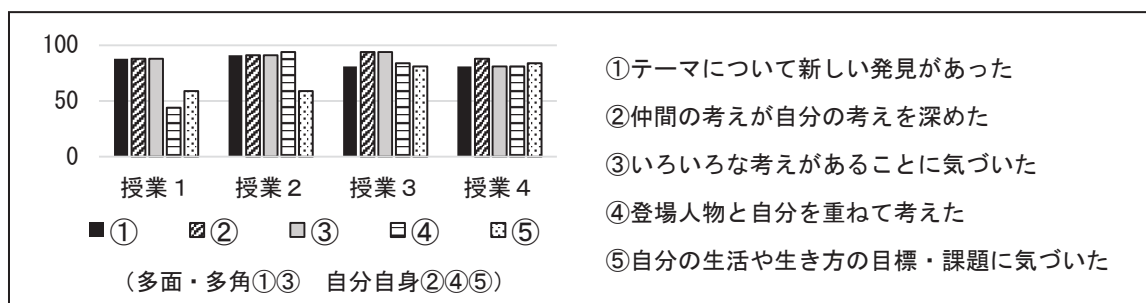
生徒A	授業3 <学習テーマ：「どっちの靴にする？」>
	<p>【前】テーマについてのあなたの考え、思い、イメージを書きましょう。 速く走ることができる靴</p> <p>【後】今日の学習で感じたこと、考えたことを書きましょう。 特に迷わなかった。 (*学習シート、2回目の問いに「速く走ることができる靴は履かない」と判断) 人の夢を壊してまで自分の夢を叶えたいとは思わない。</p>

自己表現が苦手であるため、思いが表出されにくいという生徒もいる。生徒Aは、授業3において、授業前と後のテーマに関しての記述を行うことができた。「大会前、あなたは速く走ることができる靴と普通の靴、どちらを履きたいか」という導入時の発問では、「速く走ることができる靴」と答えていたが、学習中に、主人公だけでなく、関係する周りの人々の思いについて考え議論したことによって、最終的な判断が変わり、その理由も述べている。この記述から、生徒Aの変容や、なぜそう考えたのかが見取ることができた。

このように、記述自己評価は、考えの根拠や授業中の観察からの見取りが難しい生徒のよい学びを把握するのに有効な手立てである。

(イ) 1単位時間の自己評価による選択式自己評価

1単位時間の自己評価の選択式自己評価の回答で○をつけた生徒の割合を【図 2】に示す。



【図 2】選択式自己評価の回答で○をつけた生徒の割合

授業1は肯定的な受け止めにばらつきが見られたが、授業4ではどの項目も安定していることがわかる。教師が1単位時間ごとに指導改善・工夫を試みたことと、生徒自身が道徳科の学び方を心得てきたことも影響していると思われる。また、生徒の記述振り返りの中には漠然とした内容の記述もあるが、選択式自己評価や「心に残ったフレーズ」を参考にすることで、より具体的に学習状況を把握することができた。

このように、選択式自己評価は、授業中の教師による観察や記述からの見取りを補うのに有効な手立てである。

(ウ) 教師の見取り

授業中は、学習シートや自己評価シートといった記述に関することが苦手な生徒を中心に観察を行ったほか、その授業の中心となる学習活動場面における生徒の様子に注目した。また、意図的に指名して口頭で発表させたり、意思表示カードを生徒に持たせたりすることで、生徒の思考を確認することができた。授業の展開後半や終末になってくると、発言者に顔や体を向けて話を聞こうとする生徒が増えた。展開後半や終末は自分の考えを深める場面が多い。どの場面で観察するかによって、生徒が道徳的価値に関しての考えを広げようとしているのか、もしくは自分事として捉えようとしているのかが見えてくることもある。

授業中に生徒が大きく頷いたり表情を変えたりするのは、それなりに心が揺さぶられているということである。記述自己評価や心に残ったフレーズを参考にすることで、よりそのときの生徒の考えを把握することができる。

ほかに、教師が活用できるものとして学習シートがある。考えの根拠が書かれているだけでなく、線やしるし、また、メモ欄からも、いつ、何をきっかけに考えが変わったのか、深まったのか見取ることが可能である。

このことから、確かな生徒理解に加えて計画的な観察を効果的に設定することは、より丁寧に生徒の心の動きを見取ることにも有効であると言える。

イ 一定期間における学習状況や道徳性に係る成長の様子を見取る手立て

(ア) 一枚自己評価シートによる記述自己評価

進歩を見取ることができた生徒の一枚自己評価シートの記述例を【表21】に示す。

【表21】 進歩を見取ることができた生徒の一枚自己評価シートの記述例

生徒 B	【後】今日の学習で感じたこと、考えたことを書きましょう。
	授業1 社会貢献だけだと思っていたけど、自己実現もあったことがわかった。
	授業2 ちょっとしたことで戦争を起こすことになってしまう。 →自分たちの暮らしている環境や、関係のない他の地域まで巻き込む。
	授業3 これからの人生でも、大きな迷いがあるかもしれないけど、よく考えてみて、自分なりに正しいと思う方を選びたい。
	授業4 大切な時間を他の人たちに使うことは、私にはできないことだなと思った。この父親は、でもその分、悔いが残らないのではないかと思う。もし、自分がこうなったら、真剣に考えて相手にいいコトをしたい。

生徒Bは自己表現が苦手であるが、毎時間、自己評価の記入をしっかりと行い続けた。授業1では、学習を通して新たにわかったことを記述した。授業2では、自分の考えを表出させている。授業3になると、自分のこれからの生き方について述べている。授業4では、さらに、登場人物と自分を重ね、道徳的価値の実現の難しさを感じながら、どういう自分でありたいか考えている様子を見取ることができた。また、文量の変化とともに記述内容の深まりから成長を感じることができた。

このことから、1単位時間ごとの記述を比較しやすくするためにも一枚自己評価シートは有効であると言える。

(イ) まとめ自己評価シートによる記述自己評価

進歩を見取ることができた生徒の1単位時間とまとめ自己評価の記述例を【表22】に示す。

【表22】進歩を見取ることができた生徒の1単位時間の自己評価とまとめ自己評価の記述例

生徒D	授業4 <学習直後> 「父」は、自分のことだけではなく、他の人のことも考えて生きていくことや、思いやりをもって生活することを（自分の中に）求めていたと思います。
	授業4 <一定期間後> 自分がどんなにつらくても、自分のことより他の人のことも考えている場面がすごく印象に残った。私も、 <u>たまに自分一人のことしか考えないことがあると思うので、部活などでも他の人のことを考えながら生活していきたい。</u>

授業4において、生徒Dは学習後の自己評価に、自分なりに捉えた登場人物の「父」の生き方に関することを記述していたが、価値の理解をもとにした多面的・多角的な見方へ発展や自分自身と関わりについては見取ることができなかった。しかし、日常生活を経てからまとめ自己評価を行ったとき、「もっとも自分のこれからの生かしていこうと思った授業」として授業4を挙げた。1単位時間後の記述自己評価を発展させ、「部活動のリーダーとしての自分」と関わらせてこれからの自分の目標を考えている様子を見取ることができた。

また、他にも、まとめ自己評価を行ったことにより、価値の捉えがさらに深まったり別の角度からも考え直したりするなど、授業直後の自己評価からのさらなる成長が見受けられた生徒は全体の4割にもなり1単位時間の学習で教師が見取り切れなかった部分が新たに表出してくるものとなった。

以上のことから、まとめ自己評価は、日常生活での実感を踏まえて考え直した様子や、授業後に書ききれなかった内面部分を見取る手立てとして効果的であると判断することができる。

(ウ) 教師の見取り

記述や発言に表出されてこない生徒の見取り例を【表23】に示す。

【表23】記述や発言に表出されてこない生徒の見取り例

生徒E	学習活動	授業1 指名したが、恥ずかしがり、話し出すのに時間がかかった。
		授業2 グループのとき、書いたものを指で示しながらしゃべっている。
		授業3 映像を見ているときの表情が豊か。グループ内での表情がやわらかい。語っている。
		授業4 全体交流中、話し手に顔を向けて聞いている。発言を行う。自信を持って発表。

生徒Eは気持ちを表現するのが苦手であり、授業でもアピールすることがほとんどなく見取りが難しいため、積極的に生徒Eについて授業の様子を長期に渡って観察することとした。

授業を重ねるごとに、表情が明るくなってきて、特にグループ内の交流では生き生きとした姿が見受けられるようになった。さらに、授業4になってくると全体交流でも話し手に注目して傾聴するようになった。そして、生徒Eの選択式自己評価も肯定的な評価が増えてきた。また、記述自己評価でも授業3、4では仲間との交流について書き込んでいた。

以上のことから、記述や発言から見取ることが困難な生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を把握するには、計画的・継続的、かつ丁寧な教師による観察は重要であると言える。

(2) 見取りの関連付けの手立ての有効性

ア 横断的な評価

記述自己評価と教師による学習活動の観察を基にした横断的な評価の例を【表24】に示す。

【表24】記述自己評価と学習活動の観察を基にした横断的な評価の例

生徒F	自己評価分析内容	授業1 ①(参考3) 教材を通して、社会はつながっているという新しい発見を得ている。
		授業2 ②(参考1) 安心して暮らせる社会の実現には、多様な感じ方・考え方があることを理解し、自分の考えをさらに広げている。
		授業3 ②(参考3) 教材を通して多様な考え方があることに気づいている。
授業4 ⑦(参考3) 自分や日常生活を重ね、自分の生死が関係しているとき、他人を思いやることの難しさを感じている。		
学習活動	4人グループ内ではあまり話さないが、全体交流では挙手したり表情豊かで生き生きとしている。授業2では挙手して反論意見を述べた。	
評価文	「わたしのせいじゃない」の授業では、振り返りの記述や授業中の発言から、安心して暮らせる世界について捉え方を広げ、世界的なレベルで公正、公平、社会正義の大切さを理解できたことがうかがえました。	
生徒G	自己評価分析内容	授業1 ①(参考3) 働く意義について、社会貢献という新しい発見を得ている。
		授業2 ②(参考3), ⑤(参考1) 安心して暮らせる社会については多様な考えがあることに気づき、これまでの自分を見直し、これからの生活や生き方の目標や課題を考えている。
		授業3 ⑦(参考2) 登場人物と自分と重ね、目標の達成にはさまざまな困難があるが、自分で判断することは大切だと考えている。
		授業4 ④1(参考1), ⑤(参考1) 登場人物に自分を重ねながら深い思いやりについての理解を深め、これからの自分の生き方の目標について考えている。
		まとめ <もっとも自分の考えが広がったと思う授業> 授業1 ⑤(参考1)
学習活動	正統派な考えをいつも書く。隣の席の生徒の学習を支援している。授業4では中心発問に関わって発表した。	
評価文	「われ、ここに生きる」の学習では、働く意義には社会貢献があることを捉えた上、これまでの自分を見直し、勤労に関してこれからの生活や生き方の目標をまとめ振り返りに書くことができました。	

生徒Fの場合、一枚自己評価シートで記述自己評価を比較すると、授業2における学びで顕著な学びを見取ることができた。さらに、まとめ自己評価でも、生徒F自身は「もっとも自分の考え方・判断に影響があったと思う授業」として授業2を選択した。このような理由から、生徒Fの評価は授業2での学びを取り上げることとした。

生徒Gの場合は、一枚自己評価シートで記述自己評価を比較すると、授業4における学びで顕著な学びを見取ることができた。しかし、まとめ自己評価では、生徒G自身は「もっとも自分の考えが広がったと思う授業」として授業1を選択した。そこで、まとめ自己評価に記述されている理由を分析すると、価値と現在の自分を関わらせている内容が書かれており、授業後の記述振り返りからのさらなる深化を見取ることができた。また、教師が特に顕著なよい学びを見取った授業4については、まとめ自己評価において選択されていなかった。このような理由から、生徒Gの評価は授業1での学びを取り上げることとした。

これらのことから、複数時間の授業の生徒による記述自己評価等を比較していくと、特に顕著なよい学びがあった1単位時間が見えてくることがある。さらに、まとめ自己評価も活用することで、教師の見取りと生徒の実感が一致し、認め、励ます評価としてより説得力ある記述が可能となると言える。また、教師の見取りと生徒の実感に差異があった場合も、高い道德性に導くことを考えれば、生徒の思いに寄り添う評価とすることも有効な手段と言える。

イ 縦断的な評価

(7) 教師による学習活動の継続的な観察を中心とした評価

教師による学習活動の継続的な観察を中心とした縦断的な評価の例を【表25】に示す。

【表25】授業中の継続的な観察を中心とした縦断的な評価の例

生徒H	自己評価分析内容	授業1 ②(参考3) <u>仲間の考えから</u> 、働く意義には多様な考えがあることに気づいている。
		授業2 ②(参考3) <u>仲間の考えから</u> 、いじめに関する問題には多様な考えがあることに気づいている。
		授業3 ④(参考3), ①(参考3) 主人公に自分を重ね、判断の仕方について新たな発見を得ている。
		授業4 ①(参考3) <u>仲間の考えから</u> 、思いやりについて新しい発見を得ている。
	学習活動	4人グループではTさんが話すことに反応し、切り返している。授業4で挙手発言。 <u>振り返りは仲間との交流を通した内容が多い</u> 。振り返りの記述はいつも端的に書く。学習シートではしっかり書き込みを行っている。
まとめ	<この期間を通して、あなたは道德の授業をどう感じましたか> すべての授業はこれからの人生に絶対生かされるので、とても役に立つと思いました。	
評価文	毎時間の道德の授業では、テーマに関して多様な考えを受け止めながら交流し、自分の考えを広げていくことができました。学習後は、学んだことが自分の人生とも関わってくることに気づくようになりました。	

生徒Hは、考えを整理して文章化することに時間がかかるせいもあり記述自己評価の量が少なく、内容も端的である。しかし、毎時間の選択式自己評価では「仲間の考えが自分の考えを深めることになった」、「授業を通していろいろな考え方があることに気づいた」という項目において「あてはまる」という自己評価があった。さらに、まとめ自己評価では、道德の学習は生き方と大

きく関わってくるという内容を記述している。また、生徒Hは学習中において、グループで交流したり、交流を通して得た情報をメモしたりすることに積極的であった。このような理由から、生徒Hの評価は、毎時間の授業において、他の生徒との積極的な対話活動を通して多面的・多角的な見方で考えている学びの様子を中心に取り上げることとした。

このように、教師による授業中の継続的な観察は、毎時間の学習活動における努力や輝きを把握できるようになるので、そのよさを評価することが生徒の意欲をさらに引き出していくことに有効に働くと言える。

(イ) 生徒による記述自己評価の内容の変化を中心とした評価

記述自己評価の内容の変化を中心とした縦断的な評価の例を【表 26】に示す。

【表 26】記述自己評価の内容の変化を中心とした縦断的な評価の例

生徒 I	自己評価 分析内容	授業 1 ①(参考 3) 働く意義について、社会貢献という新しい発見を得ている。
		授業 2 ①(参考 3) 安心して暮らせる社会について、責任を持つことの大切さに気づいている。
		授業 3 ⑤(参考 2) 目標を達成するためには、 <u>これまでの自分を見つめ</u> 、熟考して判断しなければいけないと気づいている。
		授業 4 ⑤(参考 3) 思いやりに関し、 <u>これまでの自分を見直し</u> 、 <u>これからの生活や生き方の目標を考えている</u> 。
	学習活動	「不正」に関することや「自分優先」的な問題には敏感に書き込みをする。授業 1 ではテキストに線を引きながら読んでいた。
	まとめ自己評価	<この期間を通して、あなたは道徳の授業をどう感じましたか> ひとりひとりのたくさんの考えや思いについてよくわかった。 <u>この世界にいるのは自分だけではない</u> ということを嘯みしめながら、 <u>これからの生活について考えていこう</u> と思えた。
	評価文	授業では、じっくりとテキストを向き合っていました。また、道徳の学習で新たに知り得たことに加え、自分自身と関わらせてテーマについて考えている様子が振り返りの記述の内容に表れてきました。

生徒 I の記述自己評価を分析すると、授業 1 では、教材と向き合って考えていたのが、授業を重ねていくうちに自分自身と関わらせるようになった。また、自己評価や学習シートの記述からは、4時間の授業を通し、弱者の立場に寄り添う傾向があることが感じられた。さらに、まとめ自己評価において、他者との関わり方にも意識が向き始めていることがわかる。このような理由から、生徒 I の評価は、期間を経て、道徳的価値を自分自身との関わりで深めるようになった成長の変化を取り上げることとした。

このように、記述自己評価分析からも授業を重ねるごとに成長している点を見取ることが可能であるため、その成長を認め、励ましていくことに有効に働くと言える。

(3) 生徒へのフィードバックの有効性

ア 1 単位時間における評価のフィードバック

(ア) 自己評価へのコメント

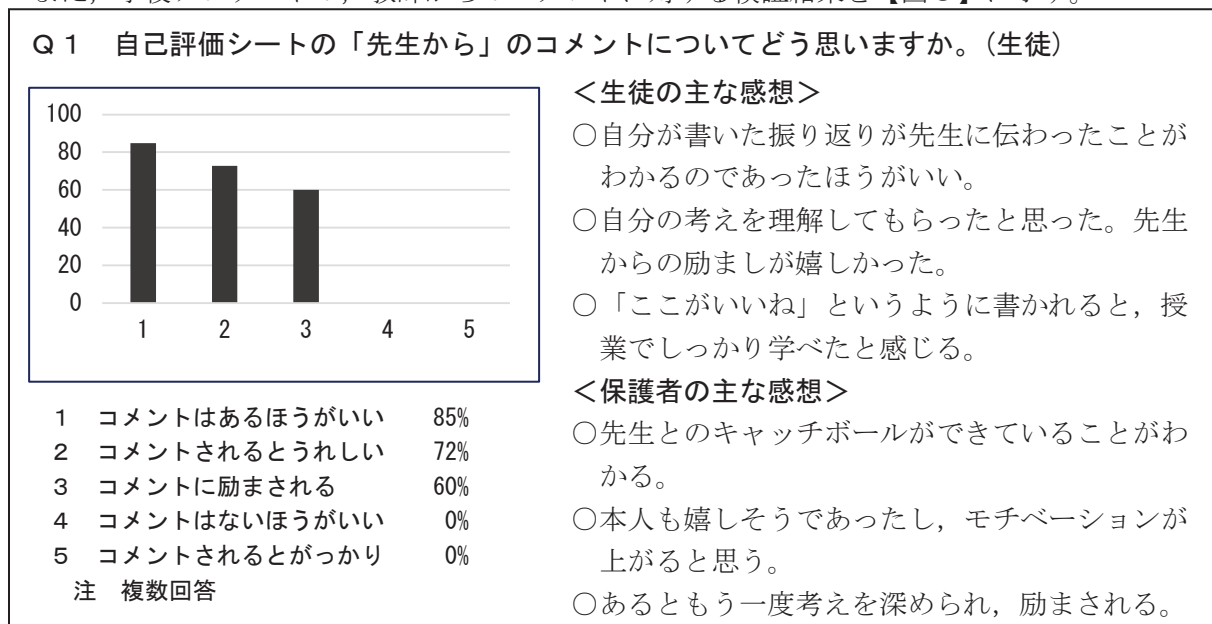
生徒による自己評価に対する教師のコメント例を【表 27】に示す。

【表 27】 自己評価へのコメント例

	自己評価記述	教師のコメント
生徒 B	授業 1 社会貢献だけだと思っていたけど、 <u>自己実現もあったことがわかった。</u>	考えが広がったこと、発言してくれたこと、嬉しかったです。
	授業 2 ちょっとしたことで戦争を起こすことになってしまう。 →自分たちの暮らしている環境や、 <u>関係のない他の地域まで巻き込む。</u>	「関係のない他の地域まで巻き込む」。確かにそうですね。
	授業 3 これからの人生でも、大きな迷いがあるかもしれないけど、 <u>よく考えてみて、自分なりに正しいと思う方を選びたい。</u>	そうですね。私もみんなの考えから、Bさんと同じように思いました。
	授業 4 大切な時間を他の人たちに使うことは、 <u>私にはできないことだな</u> と思った。 <u>この父親は、でもその分、悔いが残らないのではないか</u> と思う。もし、自分がこうなったら、 <u>真剣に考えて相手にいいコトをしてみたい。</u>	振り返りの書きぶりも <u>深み</u> が増してきて、Bさんの成長を感じます。

生徒Bは、まとめ自己評価の「この期間を通して、あなたは道德の授業をどう感じましたか」の問いに、「多くの仲間の考えを聞いて、自分の考え方にも深みが出てきた。」と記述している。教師が授業4における学びに対してコメントとして使用した言葉を、生徒Bもまとめ自己評価で使用していることから、生徒の振り返りと教師のコメントがつながっていることがうかがえる。

また、事後アンケートの、教師からのコメントに対する検証結果を【図3】に示す。



【図3】 教師からのコメントに対する検証結果

この結果から、1単位時間の学習後の教師からの評価は、生徒と教師の心のコミュニケーションにもなり、生徒にとっては嬉しく励みになるものであることがわかる。今回の実践では、生徒の記述自己評価に「生徒の考えを認め、共感的に受け止める」コメントを加えた。生徒が記述した言葉を繰り返したり、同意を示すコメントしたりすることで、「教師に共感してもらっている」と生徒が実感することにつながったと思われる。アンケートの中には、ほかに「次も頑張ろうと思えるし、もっといいことを書こうとも思う」という感想もあった。「もっといいことを書きたい」という声に

は、よりよい生き方を求め主体的に深く考えようとする意欲を感じることができ、だからこそ、道徳的成長につながっていくよう適切な学習分析とコメントを行っていく必要がある。

また、保護者にも同様のアンケートを実施したが、生徒同様、コメントの必要性を述べる声が多かった。生徒を支える保護者にとって生徒の学びが認められることは喜びであり、また、教師に対する信頼感も生まれ、共に生徒を育てていくという姿勢につながると思われる。

以上のことから、1単位時間後の教師のコメントは、生徒の学びを認め、励ますことに有効なので、コメントの内容については吟味することが大切である。

(イ) 道徳通信

事後アンケートの自由記述を【表 28】に示す。

【表 28】事後アンケートの自由記述

- | |
|---|
| ○道徳通信では、同じような意見ではなく、いろいろな意見が載っているので、こんな意見もあるのだなあと理解が深まりました。 |
| ○自分と似ている考えや思いつかなかった考えを知ることができたので、道徳通信は続けて欲しいです。 |
| ○道徳通信でいろんな人の考えを改めて知ることができたのでよかったです。 |

この回答から、道徳通信を発行することによって、さらに道徳的価値に関わって多面的・多角的な見方へと発展する効果があることが考えられる。

道徳通信は、資料の紹介、生徒による記述自己評価の紹介、教師の1単位時間の生徒の学びに対する感想を掲載した。授業4回とまとめ振り返りについてそれぞれ発行し、5枚を通して生徒全員分の記述自己評価を紹介することができた。「いろいろな考え」を知ることによって道徳通信の利点を感じている生徒が多いことから、さまざまな視点、内容の文章が紹介されたことが、生徒の記述自己評価の内容の充実に影響を与えているとも考えられる。また、授業の中で出てこなかった仲間の考えを新たに知り得て、さらに考えを深め、そのことが学ぶ楽しさや喜びになり、今後の学習意欲につながることも考えられる。

以上のことから、通信によるフィードバックも学習の深化の手助けとして有効であると言える。

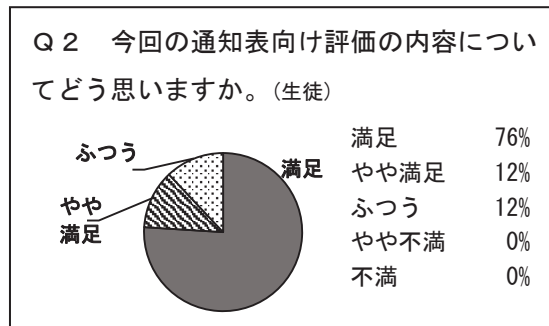
イ 一定期間を経た全体的な評価のフィードバック

事後アンケートの通知表向け評価に対する検証結果を【図 4】に示す。

この結果から、生徒は通知表の評価文を好意的に受け止めていると捉えることができる。「満足」と「やや満足」を合わせると88%もの高評価を得た。

一定期間における評価は、生徒による自己評価の分析、教師の観察、多様な評価材料の関連付けといった過程を通して行ってきたものであるが、より「よさを認め、励ます評価」を目指していくために、評価文にさらに手を加えた。そして、生徒個々の日常の姿、道徳的諸価値に対する意識などを思い浮かべて書き改めたことで、認め、励ますポイントやその軽重が生徒に応じて具体的なものとなってきた。今回の実践では、このような手厚い手順と、生徒の特性に細心の配慮をもって評価に取り組んだことが高い満足度につながったと思われる。

以上のことから、今回の評価の試行はおおむね効果的であったとみることができるが、道徳科の教科化に向け、評価方法等について生徒や保護者への説明の充実を図る必要がある。



【図 4】通知表向け評価に対する検証結果

Ⅷ 研究のまとめ

1 全体考察

本研究は、認め、励ます評価に生かす自己評価の分析方法について研究し、自己評価を道徳科の評価全般に効果的に活用する方法を明らかにすることで、中学校道徳科における評価の方法を提案するというものであった。

検証結果から、認め、励ます個人内評価に生かす自己評価の分析や、一枚自己評価シート、まとめ自己評価シートを軸とした横断的な評価と縦断的な評価が、中学校道徳科の評価の方法として有効であることを確認することができた。

実践では、生徒が自分のことについて記述したり振り返ったりする自己評価は、生徒が自身のよい点や可能性に気付くことを通じ、主体的に学ぶ意欲を高めることなど、学習の在り方を改善していくことに役立つものの一つとして重要であると感じた。そのため、教師は、生徒の学習状況を把握して評価することを通して、さらに質の高い授業づくりに努めることが大切である。

また、生徒に対しての評価は、教師と生徒の人格的なふれあいによる共感的な理解を基盤とし、慎重かつ計画的に行うことが重要であると感じた。今回の実践では、一人一人のよい点や進歩の様子などを毎時間の授業観察や自己評価を分析し、さらに中・長期的なよい学びにも目配りして生徒がどれだけ成長したかという視点で個人内評価を行ったことが「認め、励ます評価」として機能し、生徒の満足度に反映されたと考える。

2 研究の成果

- ・毎時間の自己評価のやり方が決まっていることで、生徒にとってはスムーズに取りかかることができ、教師にとっては生徒の学びや成長を比較・把握しやすくなることが明らかになった。
- ・記述自己評価分析表を基にすることで、1 単位時間の生徒の学びを簡略化したかたちで把握しておくことが可能であることが明らかになった。
- ・まとめ自己評価を行うことで、生徒にとってはさらに学び直しができ、教師にとっても1 単位時間では見取ることができなかつた生徒のよさを改めて発見できることが明らかになった。
- ・生徒個々の特性に応じた細やかな見取りによる教師からの評価を、生徒はおおむね好意的に受け止めているということが、事後アンケートによって明らかになった。

3 今後の課題

- ・一定期間における生徒の成長を見取るための一枚自己評価シートの活用は授業構成とも関わってくるので、年間指導計画を作成する段階からの見通しが必要である。
- ・生徒が主体的に道徳的価値について学び続けていくために、生徒が自分のよさを肯定的に感じとり、また、今までの自分をより広く深く自覚し、これからの課題や目標を見つけることができるようなコメントを目指す必要がある。
- ・評価によって生徒を認め、励ましていくために、今後も新しい視点での道徳科の授業力向上を図っていきたい。
- ・多忙な学校現場の中で効率的に進めていくことが可能な評価活動について、さらに研究を進めていきたい。

<おわりに>

長期研修の機会を与えてくださいました関係諸機関の各位並びに所属校の諸先生方と生徒の皆さんに心からの感謝を申し上げ、結びのことばといたします。

Ⅸ 引用文献, 引用 Web ページ, 参考文献, 参考 Web ページ

【引用文献】

文部科学省(2008), 『中学校学習指導要領』, 東山書房, p. 115

【引用 Web ページ】

中央教育審議会(2014), 道徳に係る教育課程の改善等について(答申), p. 16

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/__icsFiles/afieldfile/2014/10/21/1352890_1.pdf (平成 29 年 11 月 21 日閲覧)

道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議(2016), 「特別の教科 道徳」指導方法評価等について(報告), p. 10

http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/__icsFiles/afieldfile/2016/08/15/1375482_2.pdf (平成 29 年 11 月 21 日閲覧)

文部科学省(2015), 『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』, p. 13, p. 107

http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2016/01/08/1356257_5.pdf (平成 29 年 11 月 21 日閲覧)

文部科学省(2017), 『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』, p. 112

http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2017/11/02/1387018_11_3.pdf (平成 29 年 11 月 21 日閲覧)

【参考文献】

石丸憲一(2016), 『ループリック評価を取り入れた道徳科授業のアクティブラーニング』, 明治図書

柴原弘志(2017), 岩手県立総合教育センター 道徳の時間を「要」として進める道徳教育研修講座資料

永田繁雄(2017), 『「道徳科」評価の考え方・進め方』, 教育開発研究所

毛内嘉威(2017), 第 42 回岩手県道徳教育研究大会気仙大会 発表資料

【参考 Web ページ】

岩手県立総合教育センター 長期研修生 恩田弥生(2017), 中学校における「考え, 議論する」道徳科授業の在り方に関する研究

http://www1.iwate-ed.jp/kankou/kkenkyu/172cd/h28_1104_1.pdf (平成 29 年 11 月 21 日閲覧)

京都市総合教育センター 研究員 中山芳明(2017), 道徳における生徒の自己評価を生かした記述式評価と授業力の充実(2 年次)

[file:///C:/Users/tyoken01/Downloads/582%20\(6\).pdf](file:///C:/Users/tyoken01/Downloads/582%20(6).pdf) (平成 29 年 11 月 21 日閲覧)

日本放送協会 NHK for school

<http://www.nhk.or.jp/doutoku/kokorobu/> (平成 29 年 11 月 21 日閲覧)

文部科学省(2017), 『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』

http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2017/11/02/1387018_11_3.pdf (平成 29 年 11 月 21 日閲覧)

山梨大学教育人間科学部附属教育実践総合センター 中国昭彦, 堀哲夫(2011), 自らの成長を実感させる道徳授業の実践

http://www.cer.yamanashi.ac.jp/web_up_file/centerkenkyukiyou/j16/pdf_data/no16_02.pdf (平成 29 年 11 月 21 日閲覧)